雜　女
# The Woman's Magazine.
## (JOGAKU ZASSHI.)

No. 243.　DECEMBER, 13TH.　1890.

EDITORIAL :—The Pauperism in the First National Assembly.

WORDS AND DEEDS :—Love One.　Virtue.　A mind, pleased.　The Resolution on the work of Reformation.　O my Comrade!

MISCELLANEOUS :—What girls ought to know to make themselves virtuous (Matsumura Kai Seki).　Do not despise the Children.　A talk concerning Mr. Hoshi Toru (Osuishi.)

HOUSEHOLD SCIENCE :—Bride and mother-in law.　(Ko-yo-Sannin)

NOVEL :—"Danchō" (Misao.)

PHYSIC :—The benefits of Bed stead.　How Frosts is formed, &c.

CHIDREN'S COLUMN :—"Sheep and their Shepherd."

LITERATURE :—Japanese Poem.　How to make Japanese Poem, (Unposhi).

CRITICAL NOTES :—
HUMOROUS :—
CONTRIBUTED ARTICLES.
NOTES AND NEWS.
CONCERNING WOMEN.

## 第二百四十三號目次

社說　言行　雜錄　家政　小說　理學　兒鑑　文學　批評　笑ひ草　問答　時事　新誌　女報　週報

窮民救助法を何如にせん●一青年社會改良事業の覺悟●
一を愛せよ●德●觀心●
友よ！友よ！●
女子德を脩むるの心得(松村介石)●小兒を侮る勿れ
(て、に、生)●星亭君の婦人に關する談話(櫻水子)
嫁さ姑(紅葉山人)●里芋牡丹餅の製法●
斷腸(中ノ一)(みさを)●
寐臺の衛生上に於る利●寐臺の冬溫かき理●寐臺の夏
凉しき譯●高き處の寒冷なる理●何故に霜生ずるか●
羊さ羊飼のはなし
和歌數首●歌を作る事(雲峯)
人道教●百家說林●帝國議會に對する新聞●文學上の
評論●和洋の畵●妾薄命(雲の舍主人)●かつら姫(清
艶子)
數件　五十歩百歩(ふみ子)
星亭君廢娼論●女子商工會●明治女學校●花園女史父
に禁酒を勸む●坊間の藥二ツ●國文學●聖經文學●支
那の亞片●支那人英國民に訴ふ●英人の雜誌支那人の
慘狀を寫す●國會の婦人傍聽●パーテル●廢娼の聲四
方に反響す●社員傷つく●高等探報●
物價

## 廢娼バザール廣告

一寫眞挾、人形、小供洋服、造花、繪畵、編物數種(實用品)
一本邦細工物種々、布團綿子類種々、縫箔、帛紗、ゑり、
一手遊品、おし葉、ジヤミ、數種、葡萄汁、洋菓子、
一はんけち數種、書籍{猫と鼠　かへる　妓樓全廢公娼可滅　小島氏廢娼建議案　木村鐙子小傳　其他數十種
其他いろ〳〵

右は有志の貴婦人及令孃達の手製と成れるものにて此度廢娼の運動費を助けん爲め來る十九日(午後一時より五時迄)廿日(午後一時より九時迄)の兩日京橋區西紺屋町銀坐會館にバザール會を開き市中の價格よりも低價にて賣捌き候間大方の諸兄姉續々來場あらんことを(性名不順)

明治廿三年十二月十三日

徳富ひさ子　加藤とし子　矢島かぢ子
淺井さく子　潮田ちせ子　佐々城豐壽子
安藤ふみ子　島田まさ子　徳富しづ子
小島きよ子　清水とよ子

## 女學高等探報の事

本社此度**倉長恕君**を聘し女學界の高等探報を托す、今て尋常の新紙に掲載せられざるもの續々女學雜誌の紙面にし出現し、后婦人世界各段各級の寄聞珍事に社會万象の情態に一生面を開くとあらん。

女學雜誌社

小生儀去る四日不幸にして兇賊の爲めに負傷仕候處早速諸兄姉の來訪慰問を辱ふし御懇情の程厚く御禮申上候爾後幸にして異狀無之漸次快方に趣候間御放念相願度先は右不取敢如斯候也謹言。

芝區高輪南町五十三番地　**木村祐吉**

**貧民救濟論**に關する沈痛高潔精細なる論說は、女學雜誌の第二百十六號七號に見へたり。

## 廣告の廣告

女學雜誌改進后廣告委頼頓に增加し每號附錄數葉を加ふれど尙ほ間に合ひ兼候、但し以后は水曜日迄に御申込有之候ものに限り切度其週發兌の雜誌に掲載するやう可仕候。

誌　學

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百四十三號 明治二十三年十二月十三日發兌

# 社說

## 窮民救助法を如何にせん

政府が衆議院に提出したる第一の議案は、窮民救助法と題するものあり。內務次官白根專一氏は、去ぬる六日、衆議院議場に出席し、右法案提出の大趣旨を精細鄭重に辨明せり。其時、二三議員が「何故かゝる法律を必要とせらるゝや」との問あるに對し、そは道德上及事實上二ッの必要あるに因る、即ち、既に市町村制を實施して地方自治の運びに到達せる今日に於ては、市町村が其地內に居住せる窮民を助救するは、道德上當に然るべきの事とす、是れ一也、亦た從來太政官の發布に係る恤救規則なるものありとは雖ども、之を現今に施こして手の屆かざる所ろ至て多く、實際更に綿密ある助救方なくんばある可らず、是れ二也。此を以て則はち此案を提出すとは答辨ありぬ。

吾人は此法案の條則、其宜しきを得たりや否やと云へることを暫らく問ふとあらざるべし、寧ろ先づ政府が窮民を憫れみ助くるの主旨を以て此案を草し、本年提出すべき議案夥多あるの中に就き、第一に斯る慈善主義の法案を提出したる所以の志を稱し、國會の平民たる衆議院議員が、其議場第一開會の曉に於て、同情愛民の破天光を發輝するとを得るを、極まりなく祝す。

然るに議員中奇怪の言語を發ち、「凡そ貧民を救助すると云ふとが、吾人相ひ互ひの義務であると云ふ以上は、貧民は救ひを求むるの權利ありと云はねばならぬ」など反問したるものあり。此は救助と云へるものゝ倫理を知らざる謬見にして眞とに採るに足らずと雖ども、事の異躰は之のみにあらず、議員惣躰が此法案に對するの氣受槪して宜しからず、大率ね墓々しからぬ待遇を之に與へて、多分は全たく之を否決せんとするの傾向あり、之が爲の特別委員も左程に之を重視せざるの躰あり。不思儀千万の現象と云ふべし。

貧民救助に三の法あり。一個人にて之を施すと、之を最上となす。會社に於て之を施こすと、之を中となす。政府もしくは公共の手に於て之を施こすは、下の下なるものなり。但し完全ある政治に於ては、無論、救助慈善の德行をも含有する所ろあかる可らず、左れど方今晚近の如く、不完全なる政治の外、得て行はれまじきの時世に於ては、政府が慈善救助の

事に手を出すは、害寧ろ多くして利反つて少なし、吾人嘗て其所以を細論す（本誌第二百十七號參看）未だ俄かに法律上の救助に贊成するものにはあらず。然れども、只だ經濟上の偏眼を以て社界万般の現象を眇察し、マルサス、リカード、マツカロツクの論議を此上なき信仰箇條として、貧民は餓て死すべし、之れ社會の大法なりと謂はんと、勿論吾人が素懐にあらず。吾人は政府たらんもの總ての貧民に向つて救助を與へざる可らずとは謂はず、然れども亦た如何なるとありても決して之を救助す可らずとは言はず。即はち今回政府が提出したるが如き救助方案を以て、策の宜しきを得たる者とは信ぜず、然れども亦た議員が概して之を冷々視し、一向に頓着せざるが如きを以て、道の宜きを得たる者とは思はず。

夫れ國家は一つの大船の如し、市町村は船中の室房に似たり、國民同舟に乘じて人世の荒波を渡る、當に一家同族の心掛を以て相助け相救ふ所ろあるべき也。助救の事にして、若し多少の害を招くとだに無んば、人は皆な己の物を捐てゝ他に惠まんとを欲す、人間の美性此に存して、万事の理想此の一點に向はずと云ふとなし。但だ夫れ助救は時ありてか人の獨立心を害し、之に惠むと云ふ者偶ま以て之に毒を與ふるの媒となり、肉を活かすの慈善は反つて其靈魂を殺ろすの誘惑となるとあり、此を以て天は英雄を盤根錯節の間に苦しめ、人は特更に愛兒を旅立たせて浮世の甘酸を味はしむるとあり、慈善せざる所ろ即はち大なる慈善たると亦無にしもあらざるなり。故に一概に貧民を救助すとせば貧民反つて增加すべし、然れども如何なる窮民をも決して救助せずと云ふに至つては、國民同情の愛何處に存する、市町村睦和の精神何處に存する。

フランクリン曰く、人もし一日に四時間勞働せば、如何なる場合に於ても衣食しがたきと決して無しと。夫れ或は然らん。健やかなるものは助けを要せず、人は皆な額に汗して其のパンを食ふべき也。政府は無病健全の人に向つて救助を施とすとを要せず、彼等は皆な其手を以て其口を養ふべき也。たゞ彼の病んで起ち難く自ら働らきて食を得がたきものにのみ相應の救ひを與ふべし、之をしも顧慮せず、冷々として宣告すらく、汝ぢが病は汝ぢが招く所ろ也、汝ぢ須からく自然法の罰を蒙むつて死すべし、汝が肉の腐は衛生を進むるなり、汝ぢが骨の碎くるは末代を戒しむる也、と云はんに、之れ果して人類の結合したる社會と云ふとを得べき乎。佛人バロン云はく、貧民とは比較的の言也、窮民とは絕對的の言なり、民何

如に貧しと云ふと雖ども、貧しきが故に救へよと云はず、窮して最早や死するの外なきものに至つては社會之を顧みずんばある可らずと。吾人が市町村に向つて其救助を促がすものは、即はち此般の窮民のみ。

如此き窮民とは、孤兒の謂にあらず、又老人の謂にあらず、單に餓るもの丶謂にあらず、實に重病大疫にして頼よる所ろなく自活する所ろなきもの丶謂ひ也。彼の孤子は憫れむべきに似たり、然れども孤子は突然として天より落下するにあらず、必らずや之れを產める所ろの親なくんばあらず、而して親の之を愛するの情は、社會が之を憫れむの情けに優る、左れば社會は之を顧慮せずして可也、もし姑息として之をしも憫恤せば、子を棄つるの親增加し、姦淫者の私生兒增加し、窮まる所ろ、風儀を惡しくして反つて社會を毒するに至らん。又老人には子あるべし、子なしと云へども、老人は初めより老人にあらず、必らず若くして自から働らくことを得たるの日あるべし、彼は其働らき得るの日に於て老后の覺悟を爲すべき筈也、苟くも然らざるは是れ彼が怠慢にして事情止み難きの故にあらざるを知る、左れば社會が老人を救助するは寧ろ少壯者が勤勉貯蓄の心得を沮喪するの害あらんとす。單に餓ゆるもの亦然り、細かに其此に至るの所以を窮むるときは、或は怠たり。或は放蕩し、或は不覺悟の事を爲しつるに因る、而して其の悔改して勞働するの途絶て無きにあらずとせば、社會は亦た此輩らをも救助することある可らざる也。左れば、政府提出の法案に、

　不具、癈疾、長病、不治の疾病、重傷、老衰、其他災厄の爲め自活の力なく飢餓に迫る者、養育者なき孤兒、及引受人なき棄兒迷兒。

を救助すべき窮民と爲すを改め、

　不具、癈疾、長病、不治の疾病、重傷、等にて、頼る所なく、亦自活の力なく、飢餓に迫る者。

と修正せんことを欲す。斯くして他の煩雜ある些末の條例を全削し、實施上の手續は市町村の自治自制に一任し、惣じて其地方市町村會議の議決する儘に托するを好しとす。

吾人は大躰に於て此法案に反對すると如此し、但だ其精神に至ては幾重にも之に贊す。然るに議員諸氏もし之を冷視して一切掛念せず、全然之を否決して、市町村に毫末の救助をも爲さしめざらんとするに至ては、其國家同情の念ひに乏しきを驚歎し、痛慨極る所なけん、如此くんば、政府は令名を博して、議院は万世の嘲りを蒙むり、第一回民撰議員の失德長久に紀念せられんとす、遺憾無上。

# 言行

○一を愛せよ　エピクテタス云へらく、富を愛し、若くは樂みを愛し、若くは譽れを愛する所ろの人は、同時に人類を愛すると能はず。

○德　セント、アウグスチン云はく、德とは愛の方向を能く指揮するの行ひなり、即はち愛すべきものを愛し、惡むべきものを惡むにあり。

觀心　　西行法師

やみはれて心の空にすむ月は西の山邊や近くなるらん

一生の苦辛、練つて心を玉にし、玉乍まち碎けんとす、玉の光の增しぬるは其碎くるとの近きゆへと云ふ。人斯くして滿足し得べきや。死を以て人間の万事畢り、靈魂死後に存せずと思わんには、心細きと幾千ぞ。

山里は訪れし庭もあとたえて散しく花に春風ぞ吹く　頓阿

初瀬山かたぶく月もほの〴〵と霞に漏るゝ鐘の音哉　定家

木において見たより多き落葉かな　也有

○一靑年社會改良事業の覺悟　　みどり

近ごろ大政事家の隨一と目ざさるゝ或人の懺悔に、余れは日本國民の前途如何なる運命に歸すべきやを確とは知らず、車に乗りて坂を降るとの如く、輕舟に乘じて流れに沿ふとの如く、たゞ行掛りに隨つて走り行くのみと。之れ切て思慮ある人の悔ゆる所ろなり、斯る悔だに無くして日夜狂奔する所の輩ら引も切らず。あゝ悲しき哉、信仰なき人は風に飜へる海の波の如く、嵐に吹き拂はるゝ秋の木の葉に似たり。確信確認する所ろなくして、夫れ果た何事をか爲すべき。余れは常に信ずるなり、余が爲す所ろの事業決して失敗せずと。蓋し困するともあらめ、倒るゝともあらめ、又中途にして死するともあらめ、左れど此は余輩の所云る失敗にはあらず。失敗とは道を離るゝ時の謂ひ耳。苟くも道に循がつて事を爲さば事業の形體はよし破るゝとも、精神の碎ると必らずやあるなし。正義は必らず徹ふり、大道は必らず達す。國民を此方向に導びかんとして中途困死すとも余輩の事業失敗せしにはあらず、更に續く所ろの同志者に先例を遺したるあり。エルサレムの殿一日にして成らず、正大の事業は人の一生にして成る



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

べきにはあらず、若し一つの石にても石の上に置えなば則はち足れり。仁者の涙は徒らに落つるとなし、后の世の仁心を潤ほす、義人の血は効なく乾くとなし、凝つて第二世の義人を生かす。道に循ふの事業は常に失敗せず。余は歌ひつゝ、讃美しつゝ浮世を進み歩む。

○友よ！、友よ！　もみぢ

聖れを求むとは、必らずしも益せんとの慾あるにあらず、吾が爲す所ろに人の同情を請はんとを欲するが爲めなり。吾が思ひを人に語りたきは、必らずしも所存の程を誇らんとにはあらず、語る友なくんば心さびしきが故なり。人の獨孤にて居るは宜しからず。同情同感の活物なくして何を頼みに世に存らふべきや。シーザーは言へり、吾れは天下を取れりと、左れど一人の友もあらずんば、實は心貧しきなり。世の人都會はにぎはしと云へり、然れども眞のにぎはしきは聲の喧ましきにあらずして心に友を得たるの時なり、都には名利の爭あれども、眞實の友情はなし、之を以て大ひなる都會は大ひなる砂漠に均しき心地す、田舍人の家遠く離れて心の極めて近しきに孰れぞ。人世もし友なくんば魂しひは死すべし。

# 雜録

## 女子德を脩るの心得

松村介石

### 第二種　脩德に意を留めぬ人（上）

第一の種類は所謂姦佞邪智の人を包括ず。而して今此第二種に於ては則、我儘氣儘。慳吝身勝手不注意。己惚の人を含蓄す。第一種には。才子多く。學者多く。而して似非烈女即所謂やり手多し。然れども畢竟惡人たるを免ぬかれず。今此第二の種類には。寧ろ無學無智者を多しとす、然れども惡を距ると頗る遠く。寧ろ憫れむべきものありて存するを見る。サテ此の第二種類の人を畫き出せば、

（第一）我儘氣儘　我儘氣儘ある僻病は。脩德に意を留めぬより起る。苟も脩德に其意を留むるものならんには。必ず克己反省す。既に克己反省す。必ずや我身の氣儘氣隨を發見して。之を悲しみ。之を悔ひ。之を改め。之を正さんとを力むべし。既に之を力む。乃ち癖病忽焉として消滅し去るべし。然　則　人の所謂る我儘氣儘なるゆゑんのものは。畢竟脩德に其意を留め

ぬより起るや彰かなり。今來りて此種の人物を見よ。

先づ學校に入りて之を云はん。或學校に一女生ありけり。即ち我儘氣儘なり。朝々敎師が熱心ある修身講話を聽くと雖ども。心こゝに在らざれば。空吹く風と聞き流し。仰いで天井を睨み。俯して机上を傷つけ。欠伸の中に時をみたし。去て僅かに記するところは。即ち講話の口眞似手眞似にすぎず。而して折角の講話。空しく糠に釘となる。彼等は決して惡人に非ず。故らに脩德を嫌いて。此の如く行なふに非ず。只それ我儘氣儘にして己が自由を好むがゆえのみ。然れども善を聽いて遷ると能はず。惡癖を懐いて改むるとを力めず。人の誠意を弄びて。脩身の講話を蔑如するに於ては。其極終に惡に傾き。忠言を疏んじ。義務を輕んじ。道德を窮窟と呼び。我儘を自由と心得。終にいよ〳〵療治にかゝらぬものとなり。而して一轉第一種類の惡人と變ず。惕れざるべからず。彼等が他人を惡評するや。決して惡意より出るに非ず。彼等が學業を怠るや。決して別意あるに非ず。單だそれ我儘氣儘にして。自ら制御するとを知らず。言ひ度事を乃ち言ひ。爲し度事を乃ち爲し。浮々萍々と漂ふまに〳〵。時に從ふて言行するのみ。然れども若夫れ行いて止まずんば。我儘遂に惡習を生み惡習遂に過罪を生み。過罪遂に彼等を率いて乃ち惡鬼の子たらしむ。彼等は既に學校に在て。敎師の講話を輕んずるを知る。何ぞ其家に歸り來りて。遽かに父母の訓誨を重んずるを知らんや。必ずや不行跡に起居振舞。不注意に行住坐臥し。長を凌ぎ。老を弄び。其醜殆ど言ふべからざるものあらん。於此乎、父母大に痛嘆し。告ぐるに女道を以てすれば。彼れ揚々として答て曰く。父母や何ぞ知らん。是れ文明國の女道なり。是れ歐米の女禮なりと。兀然更に屈せぬのみかは。終に父母を無學と罵り。頑迷と嘲り。而して却て得意の風あり。蓋し學校敎師の斯くせよと敎へたるに非ず。歐米の女道の實以て斯くあるにもあらず。只だそれ講話を等閑に附し去り。歐米女子の醜處を學んで。己が我儘を長ぜしめしのみ。嘆ずるも亦た餘りありと謂ふべし。

次に家族にはいりて之を云はんに。或妻朝寐の癖ありけり。其夫之を戒しむ。答へて曰く。是れ妾が病氣なり。妾早起事に當らば。則終日頭痛を覺ゆと。又或婦飲食を撰ぶ癖ありけり。一日病む。醫乃ち命ずるに滋養物を以てし。且つ全く不消化物を禁ず。然るに醫士去りて后。彼れ私かに罵て曰く。彼れ何ぞよく己を强んや。われは我が好まざる食物なり。是れは我が嫌



Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

ふ飲料なり。とても我喉腹には落ちまじきぞ。たとひ我身死するとも。豈よく此等を飲食せんやと。斯く云ふて。竟に或は藥餌をすら用ゐず。依然として日々に不消化物を嗜好し。而して更に父母の憂慮と夫の勸諭とを顧みざりし。又或處に一女子ありけり。輕佻踈忽の癖あり。一日寳器を毀しける。其父母怒て罵りしに。彼れ兎や角に遁辭を設け。更に其非を謝せざるのみかは。却て直に病と稱して。乃ち數日スネ臥しける。其の醜きといかばかりぞや。其の愛らしからぬといかばかりぞや。而して此等は皆第二種の中に在り。

尙又己が氣の好く客あるときには。乃ちホチャ〳〵言ふて出で來り、其欵待の懇篤なると。天使の顯はれしかと思はしむ。然れども其の氣の好かぬ客あるときには。更に隱れて出んともせず。竊かに簾をおろし來りて。乃ち之に包頬させ。其の速に歸らんとを是れ祈る。是れ又此種の中に在り。然而して其の機嫌の良きときには。浮かれ戯れ舞ひ謠ひ。欣々咯々禁ずる能はざるが如くみゆると雖ども。一旦機嫌を損じ來れば。俄然として面貌變じ。其頬は脹れ。其口は閉ぢ。佛態忽ち鬼狀を呈して。其の怖ろしきと云はん方なく。人をして一見モ

七

シャ〳〵直に踵を回へさしむ。之を天氣の人と謂ふ。而して亦た此種類の中に在り。

其夫將に傳道に赴かんとす。其妻泣て止めて曰く。良人今夜は止り玉へよ。風雨ます〳〵荒れ出でぬ。傳道今夜にかぎるべきかは。夫曰く。然らず。吾既に之を約す。義必ず往かざるを得ず。妻曰たとひ約し玉ふとも。斯くまで風雨荒れ來れば。聽衆必ず一人もなからめ。無理に風雨を冒し玉ふて。萬一疾病起るあらば。寸を守て尺を失し。一を惜みて百を損すの笑を招かん。夫の曰く。否。たとひ一人の聽者なくとも。約は約なり。義務は義務なり。吾往かざるを得ずと。竟に往く。於此乎。其妻仆れていよ〳〵泣き。とふ〳〵夫を見送りもせず。又其歸るときに之を迎へず。忿て獨り衾中に臥し。而して熟眠の眞似しける。蓋し夫を愛して止めたるに非ず。我身の無聊を憂へてなりし。又其身勝手の用あるときには。屢々門墻に伺候すと雖ども。其の身勝手の用なきときには。冷然去て顧みず。葉書もて寒暑の挨拶をもなさず。忽ち恩義を空ふす。是れ亦た我儘氣儘なる人に存す。その他萬別百態。讀者は既に推したるらん。



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 星亨君の歐米婦人に關する話（上）

櫻水子手記

## 各國婦人異同

君曰く、各國の婦人と申しても英米の婦人は稍相似たるものにして其獨逸、佛蘭西、伊太利、は亦相同じ、英米の婦人には敎育ありて社會の役に立ち、又世人より尊敬を受くるとあれども、獨逸其他、伊太利に至ては、殆んど日本の婦人に異なる所なきが如し。尤も佛國に、或る極端の婦人あれども、個は例外なり。其伊太利の如きは、一般男女共に敎育なく、其南方に到れば、百分の七十位は沒字漢なり。

## 婦人は事務者に宜ろし

米國婦人の仕事は、大躰書き役又は郵便電信其他勘定向きの役を爲すなり。元來婦人は事に當りて周到緻密、外物に心を驪れず、勘定、調物は少しも麁漏なることなきを以て、夫等は婦人に一任するが宜ろし。尤も英國の婦人は、稍ゝ扣へ目にするの風ありて、專ら内事を整ふるを以て任とするものゝ如し、併し中には、非常なる婦人あり、市會議員其他の役を勤むるものあり。彼のミス、ホーセットの如き男女大學生の中最優等を占め、又數學は最優等中の最優等なりきと云へり。概して米國の婦人には、敎育が能く行き渡り居れりと見受けらる。

## 婦人の貴重せらる所以は其獨立自活

今や我邦にも男尊女卑を嘆じて頻りに婦人の地位を高めんとするものあり、是れ善き事なり。然れども我邦の婦人は、自から其地位に居らぬを如何にせん。各々其身に獨立自活の覺さへあれば自然男兒より崇めらるゝなり、女權をば故らに張らずとも伸るなり。然るを我邦婦人の如き、家を治むる事も出來ず、殊に子を育る事さへ六ヶ敷、極言すれば禽獸が子を養ふ如し、只食せて大きくする迄なり、甚しきは子を惡くして仕舞ものあり、斯の如くにして何ぞ男兒より貴ばるゝことを得んや。

# 小兒を侮る勿れ

て、に、生

粗服を着けたるとて小兒を侮る勿れ。有名なる發明家トーム、イディソンは幼時始めてボストンに來りし時恰も冬の中ばなりしが粗末なる麻布の衣を着けたり。

穢らわしき少屋に住まふとて小兒を侮る勿れ。潔士アブラハム、リンコルンは粗造なる木造の矮屋中に半生を過ごしたり。

愚鈍にして學課を覺へざるとて小兒を侮る勿れ。有名なる畫家にして巧なる彫刻家ホガルトは嘗て愚鈍なる一學童にてありき。

親愚なりとて小兒を侮る勿れ。有名なる院本作者シェキスピーアの父は己れの名をも記るすこと能はざりき。

職業賤しきとて小兒を侮る勿れ。天路歷程の著者ジョン、バンヤンは嘗て「ペンキ」屋の徒弟なりき。

身躰不具なりとて小兒を侮る勿れ。有名なる著述家アレキサンデル、ポープは貌醜くゝ丈低く大詩家ホメール及ミルトンは盲者ありし。

吃なりとて小兒を侮る勿れ。デモスデチスは幼時吃ありしが之を矯正せんと苦心盡力して遂に希國のみならず稀代の能辨家となれり。

己れの心に適はざるとて小兒を侮る勿れ。蓋し汝は小兒の何を爲し得るかを知らざるなり只小兒をして親切に正しき道を歩ましめんことを勉むるは汝の義務なり。

大人豪傑も初は小兒なり

## 家政

### ○嫁と姑

紅葉山人

よめ、と、しうとめ、とは第二の親子なり。輕薄なる世の中に、亦となき親を得、子を得ると喜多き筈なるを、實際反つて苦惱を增すとあるは、何の故ぞ。紅葉山人が夏瘦の中に書きたるは之に反し最と美はし。山人の承諾を經て左にかゝぐ。

大惡飜へれば大善となり。溺るゝも水なれば生るも水なり、虐待るに姑の愁けれど、佛のやうならば持たぬ女は可有願ひあるものは良人とゝもに百年も壽よと祈るべし。

蓮田震策が母親は美代が嫁となりし日より、家政萬端老身に大儀とこれに委せ、己れは隱居所あらば引籠り、夜は早寢朝は晏起、晝は亦樂寐して嫁に此上なき馳走したけれど、玄關客間居間と合て僅に只三間の小屋なれば、嫁が愁かるべし、如此したくはあらねど火鉢の前に美代が厚意の厚蒲團に樂坐して、可厭ながら嫁の擧止を見張を、無やと思遣れば、可成



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

見まじ、それには近所を徇徉き留守勝にして樂をさせむとの心はあれど、性來の外出嫌につひ腎重くて思ふにまかせず。せめては一人多忙きに手助と、流しもとなる筍の皮を剝き、ゆでこぼす湯の釜の下を焚き着くれば、美代は裏に洗物しながら引窓より立登る烟に驚き、馳つけて之を見るより、あれあなたは何事を遊ばします、さる事は打捨て昨日震策殿が買て戻られた小説なりと御覽なされまし。いや〳〵是しきの事は間暇ある身の運動がてら、なかなか太儀にもあらず。其方が來てより御大層なる隱居樣になりたれど、それまでといふものは下女同樣の働きぶり、それが突然に動かぬも胃病にやなるべき。　なる程おッしやればさる事ながら、お留守にかやうな事ありと震策殿に知れましたらお小言あるべし。臺所事は偏に思ひ留りたまへといふを、無理にといふも心を損ずべしと姑は悖はず、やさしき志しにほく〳〵と座敷へ戻りぬ。

午後には姑、戸棚の隅より搔餅の袋をとり出し殺念に遠火に燒きて茶を煎れ、美代と喚べばはい〳〵と氣輕に答へて、何ぞ御用と來て見ればこの體樣なり。朝からつめての洗物、何程わかき身とて毒になるべし。天氣は今日一日に限りたるにあらねば、好程に切上てまた此次にせよ。まづ茶一つ、此處に搔餅を燒きました。震策は餅嫌ひ、それに變ッて我は大好物。下齒は入齒ながら意地穢くて此の味忘れ難く、毎年少しづゝ搗きて搔餅を造れど、かうせねば嚙むに難儀と紙のやうに薄ければ、其方には味なかるべけれど點心には金米糖よりましと勸むれば美代は會釋し、難有き御志し一ッ頂きますと木彫盆の上の茶碗を見れば、つひに眼馴ぬ湯呑なり。とり上げて是はといへば姑微笑みて、子供賺のやうな紅い摸樣の可笑けれど、ゆうべ震策と勸工場へゆきし序に其方のにと買ひました。さあ〳〵暖かいうちに澤山喰べよ。まだいくらも燒くべしといへば、美代は湯呑を兩手に握り占めて、はらはらと膝に落せし涙を、何故の落涙ぞ。泣くほどの事あらば誰に隔あるべき、裹むはつらし恨めしと身を進めて心配面色に現はるれば、美代は眼を拭ひ、かねてもお話し申せし如く十二の歳母に別れ、十三の春より藤村樣へ御奉公に出ましたれば、他人のなかに物心つきて、甘露のごとき母親の慈愛の味知らず。此身は阿波鳴門のお鶴にも似たらむ。母が口移しに御飯



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くれし事もありたらむなれど、其は今覺えず、何のかのと甘え盛を手放されて、肌着も母が手にかゝりしを纏はず、一皿に四の箸を入れしも少時間にて、日傘さしかけられて後ろより母親に帶を直さるゝ娘子を見るにつけ、幾度か人知れぬ忍び泣に墓なきものよ此身はと、それはかりが旦夕の遺恨なりしに今お手づから搔餅を我に燒き、我を喜ばせむとて湯呑を買ふてたまはるとは、御志の忝じけなさが骨身に徹へ、其につけても亡母のなつかしさの餘り、ほゝ、うッかり涙を滴しました。　震策などは其味を知ねば折々不孝をして我を困らする代り、其方が孝行にしてくれるが我は何よりの歡喜、嫁の憎しといふ女に一日其方を貸してやりたし。

〇里芋牡丹餅の製法

此牡丹餅は舌ざわり滑らかにして咽喉に辷り込み、味ひ淡泊にして胃に滯ることなし、製法は、里芋一升に白米五六合を混じ、尋常の如く炊ぎ、擂木にて搗き、例の如く圓るめて、餡、黄粉、胡麻などをつけて食するなり。

# 小說

## 斷腸　中(二)

みさを

苦風板戸を吹きて音寒し、音絶ゆれば亦夜聲沈々たり、愁人何ぞ堪えん今宵の情、我身につもり來れるうき腦み、にぶき妾のふでもて如何でか盡し得べき、嗚呼是も罪業の幾らしめ、世のなれる果ぞ悲しかりける。

人のこゝろを
女子の愛情
ちひろの海の
ふかく沈める
尊きなさけに
ものゝかずかは
うきめも知らで
ちぎりを結ぶ
あたりを見れば
草木のいろも
そのありさまに
すみれのさこも

ふぐさむる
いや尊く
そこふかみ
たからだに
くらぶれば
かずくの
さちおほき
そがいへの
こゝろなき
こゝろよく
くらぶれば
うろはしきかは

こはこれ西の國のものしれる人、女子の愛情のいと貴ときを述べしものになんありける、妾が學校にありし日學べる内の一節なりと覺ゆ、拙なく記さんは本意あらねど如何にせん

原の文を記臆し侍らず、大意を記しつ、我記録に加ふ、さて只女子の男子に於けるのみにあらず、男子の愛情いとうるはしきは、女子の心に於ける事誠に然り、茫々たる海洋何れを限りと見ん、幾千年より積りけん、限り知られぬ寶財も、嗚呼遂に妾に益なかるべし、誠の愛情を得ざりしかば、妾が心中の苦愁沈憂集り來つて千斛亦万斛。

さは云へ、知らずしもあらず、眞の愛、妾が學校にありける時說き諭されし教は、今尙信ず、そが教旨詮し來れば愛なり、世の人の愛之に同しからば如何に美くしからん、さるに人之を知らず、然に我國古來の弊風とて人を愛すれば必らず、賤劣しき心の相伴ぶを見る、世に勝れ、心高かるべき、歌客すら徒らに夜の明けやすきを喞ち、獨り空閨を守るを悲みぬ、只是をのみ愛とは思へり、賤しき事の限ならずや、況てや心汚れ、思ひ卑き人々の愛情、誠に聞だにいまはしくも亦汚はし、世の風俗人情誠に斯の如し、若き女子男子の相交はり相愛せん杯は實に賤劣に見ゆめれど總じてさにあらず淸泉混々晝夜を絕たず、谷間の岩より涌き出づるが如く、一點濁惡の思ひなく、いと美はしき愛情あり、之をしも惡むべくんば、何時の世か眞正の幸福あらん。

妾の知れる人の中にいと愛情ふかき男あり、妾と鄕里を同ふせるの故を以て屢々妾の家を訪へり、まだ本鄕の某學校を卒へざりし頃、一年正月の休暇に相語らひ、心の程を語りしにはなけれども、彼人と心の合へる心地していとなつかしくなりぬ、若夫れ容貌の如何を問へば妾他の人に勝れたるを見ざりき、社會の階級を論ぜば妾其賤しきを知りぬ、財寶の多寡如何を糺せば妾其貧しきを認めぬ、されど是等はこれ、妾の愛情を切斷するの力なかりき。

されど道理に背る愛は不可なり、亦成り難の戀はすまじと自ら思ひし事茲に年あり、如何にして妾の愛を遂ん、誠の幸福を求んと、思めぐらす事數月、遂に自ら以爲らく、縱令父母の御心には背んも、妾の望む人に偕老をちぎらん、往昔異朝の大聖は父に告ずして娶しとぞ、正理を見て小道を捨つ、昔より其例乏からず、今若し父母の命に從はゞ百年の禍を招くを如何せん、斯く決心せしものゝかよわき女子の身、父母の御怒り、如何あらん、許し玉ねば如何に云ん杯思ひ出て、亦心亂れて紛々亂麻の如くありき。斷腸とはかゝる事をや云らんと思き。




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

遂に心に定めし如く爲さんとはしぬ、妾は戀人と遇へりし時より眞に自らの愛をも悟り、異國人のうたひし如く人の愛情の貴うときを知りぬ、之を知りし時の快樂は亦妾の書き盡し得ざる所、云はぬは云ふよ勝るとぞ、世の愛情にとめる人は推知し玉ふらん。

父母は素より妾にかゝる戀人のあるとは夢にも知り玉はざりき、疑だに容れ玉はざりき、妾の心の喜びは妾と戀人の外知人なかりき、戀人が偶ま訪ひ來と未だ甞て相愛の意を舌頭に顯さゞりき、眞心の到る所云はずして相悟り、遇ずして相愛す、若夫れ人世神妙の事ありとせば斯るものをや云ふべけん。

書簡の往かひも左程多からざりき、偶送り又送るゝも只通常の事を述るのみ、相愛せし心の程つゆ書し事あらざりき、されど自ら愛情の溢れしを知ぬ、妾は思ぬ、若清水溪流の如き愛情ありとせば此時の心こそさるものにてあるべけれど。

甞て妾が戀人に遇へりしより互みに與へつ與へられし、心の快樂眞に多かりき、何時果すべきとはなかりしが戀人の某學校を卒業せる後相共に樂しき月日を送り、よき助けを與へ、芳名を一世に轟かし、功を千歲に傳へんと、心に盟ひしこともありき、女子の身にて男子と事を共に取らんはよからず妻、の良人に從ふべきは聖き經にも示す見ゆ、眞に從ふて、强き助けを與へんは妾の心より望む所なりき。

心なき雲光りをさへぎり、情なき雨花を折だく習ひ、天眞美妙の愛情遂に成る能はざりき、母上の病益烈しかりしかば、妾も心にかゝり、先きに心に盟ひし事も變へんとは思はざりしが、少しく考ふ所あり、如何で御病氣の癒ゆる道を得んと望みぬ、母上の床に侍し、母上御病氣の樣いよ〳〵あしゝ、治さんすべはあきや、御心の程知らせ玉へと問ひしに、母上は苦痛の中より聲を出し、妾素よりかよわき身なりしが、過し春よりいよ〳〵よはり、心にかゝる事のみ繁くなり、良人のよからぬ行ひを見、我子の行末を思ふにつけ、日ねもす、夜もすがら、心をこらす事、御身如何に見玉ふぞや、子を持たでは親の心も知り得まじ、されど御身はや年長けぬ、理非を分たぬにもあらじ、親の子を思ふ我身より甚だし、御身の行末はと云ひて暫らくは物をも云ひ玉はざりき、やせ細りし手をあげて、靜かに淚を拭ひしも亦身にしみぬ、また云ひ玉ひけるは是のみ心ろにかゝりていよ〳〵病の重る心地す、はや

父上の御心にも從ひねと云ひ玉へり、此時の妾の心今思ひ出すも涙の種なり。

明けて妾十九歳の春となりぬ、やんごとなき際の家より娶らんとて妾の父に云ひこせしとなん、父上はいと喜こび玉ひけん、其日は嬉げに歸り玉へり、妾を一室に招きて說きて曰く人位高く富める家に嫁ぐに勝る幸ひあるまじ、今日云ひこせしは御身の聞ける如くいと貴とき人ならずや、我家とて賤しと云ふにはあらねど、斯る人に御身を嫁せしむるは榮光の極みとなす、御身徒らに異國の風俗抔學びて、賤しき人に嫁がば將來の不幸幾許ぞや、世には斯る人多し、今にして承諾かば金衣玉食只御身の心のまゝのみ、豈快からずやと、妾默して之を聞きぬ、父上はこたび必らず、妾に承諾かしめんと思ひ玉ひしさま見へければ輕々しくは答へず、妾が甞て考へし事のあらましを述べ、決心せし所を必らず成功せんと思ひぬ、父上は妾が首を打垂れ居たるを見て如何にと問ひ玉ひぬ、靜かに頸を擡げて答へんとせしが、日頃怒らせ玉ふ事の屢なりしかば知らず〱恐ろしと思ひ、暫しはものも得云はざりきされど、斯くては果てじと、口を開ひて答へけり、今にして思へば之も空しかりし。

## 理學

小糸

問。寢台の衛生上に於ける利、

息氣にて發したる炭酸氣は空氣より重くして下層に滯ふる〱又た塵埃も多く下層にあり。故に床上に橫臥せば終夜此の塵に埋もれ汚穢なる空氣を呼吸するとなれども、寢臺に寢れば此の害なし。

問。寢臺の冬溫き譯、

冬は冷たき空氣床下を流通するに依り床冷却す。其の上に直ちに橫臥すれば、冷熱平均の理に依りて躰溫を奪わるゝなり。而して其奪わるゝ量は床に奪わるゝのみならす床は更に其下方より冷さるゝ故に、冷ゆると際限なし、若し寢臺を用ふる時は、只だ僅に寢臺に躰溫を傳ふるに止まり、且つ臺の下部も、室內に滯留する溫暖なる空氣に包まれ居る故に溫きなり。

問、寢臺の夏涼しき譯、

夏は終日大陽に照らされて家屋悉く熱す、故に床上に直ちに橫臥せは、蒸熱くして寢苦きも、寢臺は此の如く熱せられたる床と離れ居るのみならず、臺の下方にも空氣を流通せしめ得

るを以て涼しきなり。

問、高き處は何故に寒冷なるか、

太陽を隔る凡そ八千万里の地面よりも、大陽に近き高處は温度高かるべく考へらるゝも、決して然らず。推理上の得數に依れば、空間の温度は攝氏寒暖計の零下百六十四度なりと申す、其譯は、高き處は太陽に近くして、たとい熱度強き光線を受くるも、地面上凡二十餘里の外は、空氣なく、熱を保含するものなきを以てなり。之に反し、地面に近き處は濃厚なる空氣層ありて能く熱を保含するのみならず、土地及び總ての物躰皆熱を受け、且つ其熱を四方に反射するを以て、たとひ太陽には遠きも温度は反つて高きなり。

問、何故霜を生ずるか、

空氣は自からの温度の高低につれて濕氣を保含するに多少あり、或る温度の時、其の含み得べき丈を含みたる極度を、飽和點と名づく。左れば、晝の間は温度高きを以て、多量の濕氣を含有し得れども、夜に至りて冷却する時は、飽和點低下して多量の濕氣を含有する能はず。其餘分は草葉岩石等の上に凝結し、遂に氷りて霜となるなり。此を以て霜の生ずるは寒き夜に多しとす。

# 兒籃

## 羊と羊飼のはなし

ふみ子

アラ梅チヤンちよいと御覧、ソラ爰にこんなに澤山蟻が居てよ、何をしてるんだらふ、チヤ〳〵此梨の志んに、噛り付て、汁を吸つてるのよ、イヤナ蟻だ、炭團の樣に、眞黒にたかつてサ、水をかけて遣うよー、どうするだらう、屹度吃驚して、逃て行だらうよ、蟻のあわてる所を見て遣うよッて一人の子供は、大きな柄杓に、水を一杯汲で來て、梨の實にかけ升た。スルと折角たかつて居た蟻は、寢耳に水でなくッて、御馳走半に、水を掛られましたから、あちらこちらに流れて散々に苦み、多分は其水の爲に、命を殞して仕舞升た。なんと皆さん、こんな戯は、よい事でありましやうか。そんなら若しも今皆さんが、爰で、おいしいものを食て入ッしやる時、丁度今の子供の樣に、皆さんよりも強いものが來て、頭から水をあぶせかけて、皆さんを何處かへ、流して仕舞ッたらどうです、皆さんは、屹度其ものを、怨むでしやう。だから虫けらでも何でも、益なきとに、殺生してはありません。

世には隨分生き者を殺したり、働かせたりして、活計を立てゝ居る人があり升が、そんな人でさへも、無暗にひどいことを致し升と、遂には皆んな自分の身に酬ふて來て、慾張つただけの効能が見へぬばかりか、却て自分の損を招く事があり升。むかし或る所に羊を飼ふて其毛を剪り、暮しをたてゝ居たものがあり升た、其男は誠に慾の深い男で、毛を剪る時は、いつでも成るだけ余計にとろふと思ふて、羊の皮にかゝるほど、深うきり升た。羊も初の間は、辛抱して居り升たが、よい事にして段々深うきり升たら、とう／＼其痛さに堪へ兼てこう申升た　羊「モシ／＼親方ナゼあなたは、そんなに私を、ひどい目に合せ升か、何も私の血をお出しなさつたカラツて、血で毛の目方が、殖える譯でもあり升まいに、私はもう／＼痛くて／＼たまりません、もし私の皮がお入用なら、何時でも差上升から、いつそ一と思ひに殺して頂戴、若し左もなくて矢張毛ばかりがお入用なのなら、どうぞ皮をおはさみ下さい升な、そうでないと、私は毛さへもろく／＼生へぬやうになり升から、と申たといふ事です。ダカラ皆さん、弱いものだとおもつていじめ升と、却て自分の損を招く事があり升から、大人になつても、此事は能く覺へて居て下さいよ。

# 文學

紅葉　池袋清風大人批（東京案山子の屋社中）

〻さしのぼる朝日うつろふ山寺の木の間にみゆる初紅葉かな

同

〻見る毎にめに付くものは秋山の青葉まじりの紅葉なりけり

同

〻このしもの名殘り露けき紅葉はに。朝日の匂ふ影の床しき

暮秋

〻まねくてふ尾花か袖をふり棄ていかてか野路を秋の行らん

評まねくてふと此處用なき辭也野暮秋なるべし

立田川の紅葉の繪を見て

〻立田姫織り出す山のから錦都の市に見るぞうれしき

里櫻衣

里人のうつやころもの白たへに月にうつろふ影のさやけさ

評昔しの迷ひたる二條冷泉の詠を見る如き心ちせりそはふや衣のふごいひ天然の感は少しもなく實際の景情もあらされば也唯言葉の上のみにてゴマカシたるや試に虚心にて實際上より能く考へ給へ初めのうつやさいふ詞はあれご下句を見れば勢を他所よりきゝ所にあらひ其衣を月夜に見る所也里人のさあれば他人の衣をうつを側に立て見たる所なるべし然るに衣は月にかゝやくやうにひろげたるにあす木綿てを布でも卷きて砧上にうつ也前に影のさやけさいふ程の事もなかるべし若し布てもさらしたるに月かてるならば然らんされご里人のらつさいふ所には何の益もなき也斯る詠は古にも今日も處々にある有名無實の歌先生の詠にあり點者は大にいましむる處ろ之を癖歌さいひ迷ひさ逃て論する處也今此詠者を敢てせむるにはあらずまた〳〵かゝる例歌出たるを幸に指示して我社中諸君の注意を引き以て誠さする也若し全く物學にて自然かゝる詠をよみたらば其癖を直すは點者の手にあれごかゝる詠多くは中古の歌書即あしき詠を見て其爲に已も其惡癖にさそはれ生涯千万首を詠して一首の歌ふき老盲先生さなる人甚多けれは若し一度其迷路に陷りたらんには眞正の歌を見るべき目は生涯開かぬもの也誠に初學の注意すべき所ふれさも哀しひ哉今日の初學之を悟りて師を撰ぶ人はあらざるや盲千人の世にて盲か盲の手引をなして共に此惑の谷に落つる其幾許なるをしらず之を他事にたさへんに支那人を文明に導くよりむしろ野蠻人を導くは安くパリサイ人を基督の教に從はしむるよりはグリシヤ人を教ふる却て易し既に題林愚抄や中古の惡詠に迷ひたる人を天然に導くよりは全き初學を其儘迷路に向はさらしめ天然に導く時はやすらかにして眞正の歌人さ爲すを得るは點者の既に經驗せし處也故に初學には古今集の外古歌書を見る事を禁しめたり迷の人或は和歌を知らぬ他の學者は何でも古代の歌ふれば必今日の詠より遙にまさる事さ心得之を尊信する也例へは予が淺瀬の波の批評に高橋五郎氏は深くほめられ其終に之を題林愚抄中に入るゝも甲乙を分つ難からんなさいへり予は一見一笑せりそは淺の瀬波いかに拙劣なるも彼つまらぬ題林愚抄さ此較せられては甚迷惑千万也若し題林叢抄の詠を撰ひ淺瀬の波の中に加へんさせば百首中一首も取るべきはあらさるべしさまでに(點者未彼集を熟讀せず唯處々を見て推察せしのみ)思へり世は得に至る程進歩すべき者也希くは諸君いつまでも古歌を尊信する事なく之を取捨する瓦玉を分つ如くなり給ふべし百人一首の如きは能く其善惡を見分け惡しきは塵芥の如く捨て之を撰ひたる定家の誤見も見破り皆足下にふみつける氣取にて詠歌し給ふべし生氣取のみふらす今數年も學び給はゞ實際其處に至る也若し生涯和歌の滋味なさは知るに明する躰にてはいかにして今日文明の世に和歌の發達を爲し且日本文學を改良するを得んや空しく古人の糟粕をなめて終はらんのみ諸君明治の女子いつまて紫式部や小町を神の如く思ふへきや第一活眼を開き給へ

## ○和歌を作る事

かほろ

余嘗て女子が和歌を學ぶべき事を記して本誌に掲げぬ、もさより淺陋の見、人をして悟らしむる所あり抔さは夢にだも望ます、若ありしさせば是僥倖のみ、されご余は今尙確信す、女子は須らく和歌を學ぶべきものなる事を、嘗て冷々先生あり余に云つて曰く「汝は和歌を學ふを以て女子の本性を養ひ得たりさなすか、陝隘の見驚くに堪へたり」さ言終つて大笑冷罵せり、余は決して斯る人に答へずさ決し、一言も云はで其處を立去れり、然れども余は決して彼の冷々先生の言に服せしものならず、蓋し余の云へりしは和歌を學ぶば女性修業中の一要素たるを述べしのみ、之を學ぶを以て修業を全ふせしものさ云はざればなり、冷々先生は余の久しく知れる人嘗て共に學び先生自ら和歌を修めたりき、中途廢施して遂に歌道を賤しむに至れり嘗て北越にあり、上京せる時右の言を爲せり思ふに世間多くの人見解する所千差萬類、尙冷々先生の如き言を爲すもの夫れ多からん。

されど余は幾多の冷笑を恐れず、反對の人多きを厭はず、聊かだも世を益し、女學の進まん事を希望す、故に思ふ所は必らず述べて世に公にせんさす、若夫れ說の不可、論の誤れるが如きに至つては偏へに淺識短才の致す所、讀者深く咎るなくして可ならん。

有名なる歌仙鈴木弘恭先生嘗て本誌に詠歌方さ題して歌よむ事につきてれもころに說き數へられぬ、余は今先生の說に反對せんさするものに非ず、自ら少しく經驗せる所(若ありさせば)を述て世の歌を學ばんさする人に示さんさす、未だ經驗さ云ふは自ら恥づる所、只僅かに思ひつきたるものさ云はゞ足れり、全躰和歌の事余等黄口の兒輩の知り得るにあられご思ふ事を云はで止むんは片腹痛たき業にこそあらめ。

詩を作るさ云ひ、亦歌を作るさ云ふ、若し詩歌の起原に溯りてよく正さば原來詩歌は作るべきものならじ、自然に思ひ、亦感ずる所を記するをこそ詩歌の本領さはするなれ、思はぬ事を思ひし如く、感ぜぬ所を感ぜるが如く云ひなすは素より詩歌の本意を失へる事たり、よき詩歌の出來む筈やはある、詩ならば只五言若くは七言の規則に從つて文字を並べたるに過ぎず、歌ならば徒らに三十一文字をかきつられたるのみ、是等は詩歌さは云ふべからず、されば人詩を作り、歌を作るさいふは大ひにひがごさなり、誠の詩歌ならましかは作りたるものにあらず、自然に出來たるなり、自然に出ですんば遂に誠の詩歌さはならず。

(つゞく)





Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

# 批評

### ○入道教

京都の人、吉田平二郎氏、前年入道教と云へるを發起し、主旨を記るして有志者に配ばりぬ。此度び落手したるは其再版にして少さか増補したる所ろを見る。所云る入道教とは、儒耶佛の三道を折衷し、怪力神事を語らずして、今の世に處する普通の道徳を組織するに在り。志は殊勝なりと云へど、到底行はれざるべし、亦た其論法も余り感服すべきほどの者なし。其造物者なしと論ずるの一節に云はく、若し天國に造物主なる全智全能の神ありて物を造るとすれば、例へば鑄工が鐵瓶を造るが如く、人を造るに於ても悉とく同一の結果で成就すべきなりと。論法大率ね如斯し。

### ○百家説林 （卷一）

佐藤定介、畠山健、二氏の校正にて、古へに名ありて今に刊本少なき隨筆叢書を追々に出版せんとし、第一の卷として、太宰が獨語、富士谷が北邊隨筆、荻生が奈留邊志、菅が筆のすさび、石川が都の手ぶり、の五書を輯めたり。中にも、北邊隨筆、都の手ぶり、の二書は極めて稀なるものゆへ、讀者の珍重一と方ならじ。各の書の初めに、作者が畧傳を物したるは、信切とや云はん。表裝雅致あり、和本めきて宜し。書肆吉川半七氏方にて發賣す。

### ○帝國議會に對する新聞

傍聽筆記の尤とも綿密なるは「國會」なり。其報道の尤とも迅速なるは「時事新報」なり。面白く逸話を冷載するは「國民新聞」なり。之に似て元氣の無きは「日々新聞」なり。四面一圖に偏する折柄、能く公平なるは「報知新聞」なり。議案に對する價値ある雜報の多きは、「讀賣新聞」あり。

### ○文學上の評論

讀賣新聞に坪内逍遥君復たび評論の筆を握りぬ。「國會」に於ける忍月君の評は、ヲオクーンめきて講釋いつも乍ら大層なり。日本評論の評者は、現時拔群の批評眼あるに、何ゆへ今一きわの大議論あきか、頗ぶる殘惜し。

### ○和洋の畵

小林新兵衛方發賣、花鳥畵譜を見、亦兼葭堂發賣、聖母及基督の寫眞畵像を見る。一は北齋の筆にして、他はラフハイロの作に據る。和洋ともに秀妙に達すれば、二つ乍ら味極深。




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

## ○妾薄命

雲の舍主人

虛心亭主人の著にして新著百種第十一號なり、一少婦の孝心と一俠客の義俠心を露はすを主旨となす、少婦もと貧家に生れ、千苦萬困の內に一家を養ふ、偶異人の奸商を事とするものにあざむかれ、舟に搭して遂に新嘉坡に至る、時に其奸計に陷りしを知り、意を決して身を水中に投じ、救はるゝの事を敍す、俠客なるものは嘗て此少婦と交はる事親し、少婦家を出る時後日の伉儷を契る、少婦死するの報を聞きし時は獨力一家を維持せんとせり、兩主人公の心情甚だ美はし、作者の云へる如く是或は神洲古來の美風なるべし、主意とする所既に斯の如し、故に本篇は他のありふれたる小說に勝りて一段高尙なるを見る、此點に於ては思ふに新著百種中一二を除くの外本篇に勝るものあるまじ。

惜むらくは一種下賤の言語擧動ある事を、俠客の義氣を寫す必らずしも俠客特有なる言語擧動の賤しきものをも畵くの必要何處にかある、女主人公の出立するに際し、偕老を約する所亦少しく拙なりと云ふべし、作者若宗敎を好まずんば闕はるなくして可なり、嘲罵するの口氣あるは亦誤れるものか、全篇讀み終はつて知る、作者の意は半眞面に半戯むれなるを。

## ○かつら姬

淸豔子

新作十二番出てゝ茲に四番、一向目立たる傑作なし、「靜閑」は篁村先生の腕前にも似合はず平々凡々、紅葉山人の「此ぬし」飾り搆造に失し、美妙齋氏の「敎師三味」「いちご姬」を作りし筆法にも似ず卑賤に落入る。其れ斯の如く出版以來傑出せし小說を見ず、故に余は今「かつら姬」に接しても左程重きを置いて讀まざりしなり、隨て其失望せし所亦割合に大ならざりし。

本編趣向陳腐殆んど敵打小說を胸中に映せしむ只此は敵の行衛知れず――否時勢已に敵打を許ざるか故に尋ねんともせず姉弟相會して只安樂に暮せしと言ふ迄なり、左れど三十枚目に「五六年以前は桂太夫と言ッて芳原で全盛を鳴したものだが其後御客に受出されたか驕落したか姿を見せず二三年前ヌット彼處へ云々」皆き去り讀者をして有耶無耶の間に彷徨せしめ、四十八枚目に至り「全盛の中に月日を過して何時の間にかは五歳といふ春に花街開けて以來の椿事娼妓解放と公文か出て樓主の頭痛女郎の悦び」と挂の口より言はしめ判然たらしむる處妙。新作十二番表裝に富む、「勝閑」の綴目を衣服の縫目になそらへし已に妙、「此ぬし」の序文の代りに登徒子好色賦を見せし尤妙。敎師三味の「是よ？ぐさ娘」とて卷頭へはさみし畫又妙なり本編表紙に桂姬の衣服と下に淀の川尻水車を寫せしは一寸思付きと言ふ可し。

左れど中にはさみたる畫は左程よろしと思はれず、楓湖の淀の渡しの畫「怜悧けれども流石は子供此方は何の心もつかず菅笠一つに姉弟の身躰おほひかれたる涙の雨空にと覆さを卯の花下し晴時下りのシト〳〵雨に」云々絕て花籠を持ち行きし樣子有らざるに「かつら」の花籠を肩に負ひ居るは如何に、よし畫は無聲の詩にして本文の足らざる處を補なうとするも本文に「折しも姉弟の草花賣は既に花を賣り果ての歸途」と在るに畫に花籠の中に花の積みはたかり居るは如何に。永柳の畫可は可なれども本文と予盾し居る所なきか「十五六許りなる女童一人づれ」と有るに畫にはなし、よし紙面の都合に依り寫し難しとするも「女性か逢柄の深草團扇を搖かすに」と有る團扇の見へざるは如何に。是等瑣細なるとふれど記しつ。三味道人足下余は曾て御身の作に係はる「松花錄」を見てひそかに御身の尋常小說家に卓出する所有るを見たり然るに本編に接するに及んで一驚を喫したり彼の「さめこ姬」は此の「桂姬」なり彼の「相生太郎」は是れの「秋宮」なり彼の「淸風齋」



Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

は此「善四郎」なり只彼の「さめこ姫」と「相生太郎」は他人にして後の夫婦にして此は兄弟なるのみなり彼の浩虚齋は義俠至誠の父にして此の善四郎は殘忍狡猾なる世話人なるの相違有るのみ其離合集散の趣向に至りては則一なり左れど君の文章に至りては亦賞賛す可き處在るを見る。左に

「桂と言ふは近在の田舍か祭の折は踊るであらう一つ踊ッて見せぬかといへば羞かみて姉の袂へ顏差し入るゝ弟の襦袢の附紐の綻みたるを結びかへつゝほんに今年は世の中騷がしく　二枚裏

弟の背にワツト伏せば弟は振放して齒を切ばり姉樣お前が泣くなと言はれた程に我は些とも泣はせぬぞへオヽ泣いても泣い泣くが道理泣くなと言ふた此姉さへ悲しさに其方の居るを忘れたものを　八枚裏

なんの〳〵禮に及ばう握飯て此娘は海老て鯛釣といひかへるを女房に大股フツツリ氣を注けられ顏を摒めて何氣なく何時の間にやら降出した空を眺むる獨語空嘯ふくといふをは畢竟これをいふならん　十八裏

娘もたまらずワツト泣かんとする口へ我と手巾を圓めて押入れジツト堪ゆれば身躰の顫へに火影も搖く許りなり娘やう〳〵齒形殘りし手巾を大切そうに押伸へながら母樣何卒其樣に悲しいと言ふて下さるな此頃は洛中に華主も殖ゑて花も賣れまする秋吉も柔順う悤風せずに歩きます　二十一枚裏

毎夜弟が夜中頃に一度づゝ定まりて小便に起きまするが其時に姉が居らずはエヽ此方も其樣な事にまで心配する事が云々　二十六枚裏

成る程男の旦那がないとは昨日聞いて知て居ります旦那がなくば奥樣でも在るまいお姫樣でも辨天樣でもないと聞いたれば何と言て善いか六かしくて分らぬ何がなしに女の旦那見る樣な人にお目に掛りたい　三十一枚裏

諺は余あるに生じ爭は足らざるに起る　（王充論衡）

戰場に於て神を畏るゝものは敢て人を恐れざるものなり　（ゼノフホン）

田圃に最良の肥料は持主の足跡なり　（アリストートル）

# 笑ひ草

## ○五十歩百歩　さよ子

天は人の上に人を置かず、人の下に人を置かじなど、口には賢しげに唱へ玉ふ人は澤なれど、さて其人達の腹の底を探つて見れば、矢張己れは世間尋常の者よりは少し……否寧ろ余程賢く、余程上位に班するものなりと、銘々に自分免許を極め込んで、獨り乃公は此限りに非ずと、澄し玉ふぞいとも片腹痛き業なれ。妾の知れる男子、我は女權論者なりと自ら名乘りぬ、扨は奥樣を如何にか扱ひ玉ふと問ひたるに、いや世間の御婦人の權利を、伸ばすとは好きなれども、自分の妻は矢張何もせず、昔の儘に、温和しく家に引籠んで居て呉れる方宜しとはいひぬ。又昨年の事なりき、彼一夫一婦の建白すとて、二三の姉妹達と、相携へて彼處此處に、訪行き其贊成者を募りける頃、とある一紳士の家に至りぬ、此人は都下にて、可なり名望あり、地位ある人なればとて、別て熱心に其主旨を語り其贊成を求めしに、彼人は言ひけるよう、其は誠に



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

結搆なる事にて候、實は甚赤面の至ながら、私も余儀なき事情にて、年來一人の婦人を召使ひ居候が、兎角内輪穩かに治まらず、ほと〳〵困じ果て候、然し今更之れを返す譯にも參らず、つい〳〵其儘に致して………、誠に御説の通り一夫一婦といふ事が行はるゝ樣になれば、實以て結搆なことで………と大に感じたる樣子なりしを以て、扨は君もしか悟り玉ひつるか、左らば此建白書に捺印し給ひて、急ぎ其女には暇取らせ玉はずやと、透さず、導きかけたるに、彼人は一向平氣にて、イヤ私は贊成は贊成でムり升が、只今自分に夫れを行ふといふ事は、少し出來兼升、妻は定て私の爲に、多年憤懣致して居り升うから、ドウカ是に調印させて遣つて頂きたしといへりしは、今猶明かに耳の底に殘りて、誠に奇異なる心地せらる。又此頃代議士の榮譽を荷ふて出京したる一人の友あり、此友曾ては、洋杖と革箱の外には、何物も携へず、只管質素を旨として、頻りに在朝諸公の、驕り高ぶれるを罵りつゝ、二言目には民力休養々々と說き居たりしが、此頃聞く所に依れば、俄に見事なる家居を借り設けつゝ、洋服も脊皺よらで、身にそぐひたるものを新に調へさせ、鬚も前々よりは、ふさやかに撫で下ろし、ものゝ云ひざまも何となうふしを付け、此間は第一回の發言に、あッぱれ練りに練りたる辨舌もて、八百圓の歲費をば………圓とやらに、直上げせられたしとの動議を提出したりとぞ。かゝる人々をも、女權家といひ、一夫一婦論者と唱へ、志士民權家といふを得ば、我日の本は、實に幸多くいと望ある國なりかし。

いづれの村の翁にやありけむ、いといたう雨降りける年、餘りに雨のをやみなければ、いかでこの翁が雨雲を拂ひ、多くの人の苦しみを、助けてんと、大なる箒持て庭に立ち、衣類の雨にそぼつをも厭はず、只管空を掃き拂ふまねす。隣の主人之を見て、走り出で、さて何事をか爲し居るやと尋ねたるに、翁かく〳〵と仔細を告ぐ、隣の主人篤と聞き終り、信實だちていひけるよう、夫れは誠に殊勝の事あり、いつその事に、屋根へ上つて、雨雲を拂ふては如何、さすれば少しにても早く其効能顯るべきものをと。折ふし此村にて博識家の聞へある戶長の息子通かゝり、眉うち顰て、いひ出けるよう、二人ともの計畫何れも甚佳き樣なるが、山へ上とに氣が注んとは、扨々何たる迂濶ぞやと、物識めかして說き諭けるとなむ。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 問答

ふみ子

問 基督教不信者をして第一に讀ましむるには何てふ書籍が宜しきや。

答 六かしきものにては、眞理一汎、やさしき方は、福音道しるべと名くる書物に候、何れも京橋區出雲町の警醒社に有ります。

問 速記彙報は如何なる雜誌に候や。

答 是は、速記に關する、總ての論說雜話等を委敷記載したるものにて、速記を學ばるゝ人、若くは其業を採らるゝ人の爲には、餘程有益ある雜誌と思ひ升。

問 小兒を教育する方法を說きたる、完全なる書物は、何と申書物に候や。

答 いろ〳〵あり升うが、醫學士三島通良氏の著はされた、母のつとめといふ書物が宜しかろふと思升、委敷は本號の廣告欄にあり升。

問 昔よりのゑらい女の事跡を書きたる書物御座候はゞ、御教へ下され度候。

答 烈女傳とかいふ樣なものは、日本のも、支那のも隨分あり升が、今日から見升れば、悉く感心すべきものばかりでもあり升ぬ、故に先づ宮內省の出版に係る、婦女鑑でも御覽になれば宜しいでしよう。私共の目して、烈女と致すものは、大概女學雜誌に、一通り其傳記を載せて有升。三四十號より百號あたりまでに就て御覽なされば澤山あり升。

問 東京府下にて女子神學校と申すは何れに御座候哉、又如何ある性質の者の入學すべき學校に候哉。

答 駿河臺と築地に各一ヶ宛あり升大概信者と、傳道師志願の者が、入學する學校です。

問 前號の貴誌上に婦人の姓名に就て、御說があり升たが、左すれば、男子が養子に行きたる時も、里方の姓を、名乘るべきものに候や、又夫婦の間に生れたる子供は、何れの姓に、從はせべきものに候や。

答 男子が養子に行きて其養家の戶主とあるか、若しくは相續人となるならば、無論其養家の姓を、名乘るべきものです、婦人が嫁に行きたるのでも、夫が死するか、或は隱居して妻が其家の戶主、又は相續人とありし時は、是亦仝樣夫の家の姓を、名乘らねばならぬ筈です、子供は、特別の事情あるに非るよりは、皆其父の姓に依るべきものです。



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 寄書

## 隨感三則

倉長恕

### ○衆議院

余甞一日衆議院に傍聽す恰も好し山縣首相を始めさし各大臣政府委員出席の日（去る六日）なりし首相は壇に立て大政の方針を演述し大藏大臣亦財政の大要を陳す而して議員等之と對峙して辨難質議すアヽ我邦の政界も漸く新生面を開き來れり社會の改良進步も此時よりせんか余甞双手を捧けて天上に感謝せざるを得す

然れども只

其生れて未だ幼穉なるが故に餘り血勢にはやり往々見苦敷擧動なきにしもあらず而して其最も見苦敷く感したるは此勇壯なる健兒の寄合に於て病人の多き事即ち是なり其日特別委員の投票終るや忽ち幾十通の所勞届ありさて議長は一握して之を示さる吁嗟何たる始末ぞや其所勞議員たるもの裏心耻る所なきか余甞は祈る何卒爾後無病健全にして議會の成長せんとを切に祈る。

### ○日本一致基督敎會の大會

此好氣運に方り日本一致基督教會は其大會を東京に開けり其緊要問題は信仰箇條の改正即ち是なり聞く神學者の中にも進步黨あり保守派あり頗ぶる大議論の末遂に雙方の歩み合ひとなり一の簡明なる信仰箇條を制定せりと余甞は復た玆に感謝す何事も斯く改良進步の氣運に向へるをな。

### ○淺草寺

余甞一日淺草寺に逍遙す夥多の善男善女と稱ふるもの靈處を叩きて冥福を念ず、中に老衲あり好下物我網に入れり晩酒の味は一入ならんと後を向て笑むものゝ如し、傍らに鳩を賣るもの猿を廻すもの皆な鷲の手を伸はして他の懷裏をさらはんと目を張る、又側らに賣卜先生あり田舍漢のキヨロ〳〵として來るを眺め此奴占たさアヽ裏面を看れば斯の如し浩嘆又長大息。

# 時事

### ○星亨君の廢娼論

君は公娼全廢に余程の熱心を以て賛成し、且つ藝妓をも決して今の儘に公認致し置く可らずと云へり。

### ○婦人商工會

五万圓の資本にて、日本橋若松町に婦人商工會を起さんとの計畫あるよし、社員は發起人の一人たる、華族松平親信氏を訪ふて、下谷西黒門町の裏長屋、いと狹き邊りに尋ね當りぬ、會の摸樣を聞くに、未だ何にも着手せず、之よりその目論見なるよし。

### ○明治女學校

明治女學校は、塾舍内の取締を一切塾生の自治に任せ、從來の取締規則を申合規則に變革せしよし。更に亦た、來春より職業部を新設し、引續き家政部を獨立せしめんとの計畫あるよし。何れも時務に相應はしき改進にして、女學上輕々しからぬ出來事と云ふべし。





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○花圃女史、父に禁酒を勸む

東京禁酒會月報第一號に、左の記事あり、

Ex-Senator Tanabe, the father of Miss Tanabe, was so fond of wine that he always gave a glass of wine to his guests. One day, the senator had company and wished to have some wine on the table; but his bright daughter acted very bravely, telling her dear father with her loving spirit, of the terrible effects of wine on men and humanity. The senator was melted by his daughter's earnest pleading. This act on the part of his daughter was the result of reading the Hinomaru Paper, a Temperence Magazine given by Mr. Ando to the good family.

○モリス夫人

モリス夫人米國に歸りて後ち、大に日本婦人の矯風事業を賞揚し、書をウイラード女史に送りて云く、日本の同志婦人は啻に禁酒の事のみにあらず、矯風事業一般に向つて驚ろくべき盡力を爲せりと。

○坊間の藥二つ

遞りに賣るゝイボタの虫は肺病に効ありと叫び、遞りに廣告するヘルスは万能効あるやうに吹聽す。普通衛生雜誌の言ふ所ろは左の如し、

イボタの虫を犬に投げ與ふるに嗅ぐのみにして食はず、猫に與ふるに亦然り、兎はキヤベヅと共に何の苦もなく喫し、左して異狀なかりき、左れば害あるものにはあらざるべし、然れども果して肺病に効あるや否やは未だ遽かに斷定すること能はず。

ヘルスは肉エキスに類し、香味甚はだ良し、百分中の成分は左の如し

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 有機物 | 四八、七二 | 窒素 | 四、一六 | 脂肪 | 痕跡 |
| 無機物 | 二四、八六 | 格魯兒 | 一〇、六八 | 燐酸 | 一、八四 |

○國文學

何事も流行の泡なるぞ悲しけれ、國文も早や巓に達きぬ、日に／＼下り坂とはなりぬ。

○聖經文學

人未だ論語孟子の文味を揚げず、亦た舊約聖書の文學に付きては、世上知れるものすらあらず。今后の流行は亦又漢學なるべし、而して聖經も追々窺はるゝことあるべし。夫に付けては、論孟、舊約などを初めに味わば、爲になるべし。

○支那の亞片

英國人が支那に亞片を賣込むとを、極大の罪なり。左れば、支那人が之に憤懣するのみならず、英國民中の義人は皆大ひに慨歎し、英政府に向つて多年其賣買を禁止せんとを勸告せり。之が爲に、亞片輸出禁止會は、十六年前より英國に設置せられ、又多の婦人會は常に之が爲に祈り、彼の英人ダイヤー氏の如きは、或は支那に行き、或は印度に行き、或は英國に歸り、年々席温たゝかならずして只管らに此不正營業を除去せ

んとに盡力せり。扨て、英國と支那との貿易條約年期もはや近々に盡くるを以て、此際一擧して亞片貿易禁止の條約を締結せしめんとて、今や支那及英國の義人等は、內外相應じて日夜非常の盡力を爲せり。左の漢文は支那人が英國民に向つて訴ふる所ろのものなり、他の畧圖は、センチテル新誌が英國民に示して、支那の家族何如に亞片によりて貧困に陷いるかの狀態を畫き出したるもの也。

○支那人英國民に訴ふ

北京戒大煙會致函於

樂善諸公臺前敬啓者自大煙販我中土如毒瘡日見潰爛傳染遍體自頂至足幾無完膚
衆諒諸公得聞其大概矣目下計吸煙者十中有六受害業如此之衆設仍不禁絕日
後將如之何並且因販賣串引中華效種害滋更甚悞農田敗家產自悞終身惰怠饑
寒品行不振心術有失偷盜搶刼兄弟不親父母若仇種種傷天害理之事無一不爲
害身體並及靈魂哀哉鴉片之害我中人仁人君子莫不傷心如見一人墜於水火且
急往救況鴉片之害甚於水火墜之者萬萬人乎且見惡人路刼殺人奪物皆云當
不容斯人活於世況鴉片之惡毒奪千萬人之財傷萬萬人之名孰得云可留於中土
而不禁絕聖經云勿因我欲食斯物而陷兄弟於罪又爲可圖此倍從之利害萬人乎
每遙羨 貴國仁心久著遐邇如禁賣奴之事急力禁絕然鴉片害人較賣奴輕乎實
恐爲害尤重且邇來中土飢荒 貴國努力賑濟中土人士口揚貴國之仁然有人云
寧不得此賑而死不若能禁絕煙害不販我中土可如中土因鴉片之事貴國落此不
美之名每有人向傳道者云爾等口中勸人行善心却唔存毒害將大煙害我中土賺
我等錢財運往爾國噫不得面觀諸公苦訴眞情筆墨不能盡繪其狀所願者一人之
力難移萬斤百人之力不難移動求 諸公同心祈禱同力禁絕成此大事除此大患
中國幸甚順請
近安

邵康吉
榮霖
薛沛卿
潘楨　謹識

○英人の雜誌、支那人の慘狀を寫す

良人は喫煙に耽りて働らかず、食物乏しくして躰だ皮と骨とのみなれど、尙ほ煙管を放たず。妻は衣服やぶれて、膝露われ、乳を出さん力なし。子は餓に泣きて寄りすがれど、抱く力もなし。男兒は丈伸ず、頭のみ大きくして腰立ず、驚風にて將に死せんとす。

○國會の婦人傍聽

女人禁制快ちよく除かれたり。祝意を表せんため、御婦人方に同伴して傍聽せんとは、板垣退助君が常になき愛相なるが、之より先、去る八日の議場に、三名の婦人傍聽せり。姓名及び

紹介者、次の如し、

栗原かれ子　紹介人　栗原亮一
日下部たれ子　同　長尾四郎右衛門
佐々木しげ子　同　同

○女執事

執事には婦人こそ好けれ。農商務大臣陸奥宗光君は、既に之を實試せらる。

○婦人矯風會年會

去六日、彌生館に於て年會を開き、役員の改選を爲しつるに左の如し、

會頭　淺井さく子　副會頭　安藤ふみ子（辭）
會計　德富しづ子　同　大塚みつ子

矢島かぢ女史は、淺井女史と同點なりしが、病尙ほ癒えざれば、勿論辭退ありぬ。

○パーチル

パーチルに係はる、カプテン、チーシヤの艶罪告訴は終に勝てりと電報あり。又電報あり、グラッドストンはパーチルに向つて其他位を退けよと烈告し、パーチルは反つてグラッドストンを罵しれりと、吾人はパーチルを信ずると篤し、而して亦グラッドストンを信ずると之に劣らず。あゝパーチル、果して、ダビデの罪を犯せし乎、否や。長大息して頻りに西天の細報を待つ。

○廢娼の聲四方に反響す

山梨縣會に於ては現に討論中なり、廢娼會員の大演說會に、妓樓より五百圓を貰受けたりとの評ある存娼壯士大暴れに暴れ、演說殘り惜しくも中止解散となりぬ、會員大に激し輿論一層起り立ち、去六日再應の大演說會には、望仙閣內聽衆忽ち滿ちて、壁外に溢れ立ち、同地未曾有の盛會盛況なりき。兵庫縣會に於ても、大坂府會に於ても、亦た同樣の建議あり、何れも盛運昨年の比ひにはあらず。

○社員傷つく

社員木村祐吉方に兇賊二名忍入れり、折好く目覺め、ピストルにて打合ひ、追掛けて更に一發を放ち、手傷三ヶ所負ひたれど、恙がなし、間近く全快可致に付、休心あり度候。

○高等探報

倉長恕氏新たに入社、女界の高等探報を任ず、今后婦人社界の消息は、尤も細かく、尤とも迅速に、掲載せられんとす。

## 新誌

さよ子

●東京日々新聞　は十日の紙上に於て、立法權さ司法權さの衝突さ題し、論して曰く、帝國議會開會の後、日未だ久しからざるに、早くも司法權さ立法權の衝突を生したるヿを、甚忌はしき事なりさて、百十二番議員が、森時之助氏の事に因りて提出したる動議に關し、議會が多數を以て此動議を贊成し、委員を撰みて、協議せしめたる末、司法大臣へ其通知に及びたるに、大臣が之れに對して、

本大臣は憲法明文の命する所に從ひ、司法權の施行を爲さしむるの外、已に着手したる刑事訴訟を、停止せしむるの權を有せず、從て他の權勢の諾否に依り、司法權の必要なる處分を、施張せしむるヿ能はす、故に議會の議決に對して何等の關係をも有するヿなし。

さの回答を爲すに至りしは、是即ち立法權さ、司法權さの衝突を生したるものよして、甚忌はしきヿなるが、吾曹は衆議院決議の解釋には不同意なり、司法大臣の回答には、公平の眼を以てしては、非難を試むべき點なし、去ながらかゝる衝突を來したる上は是非なし吾曹は、斯の如き事を、其儘に打捨置ては、議會の面目にも係はるべきに付、何さか好き方法を求めて、其面目を全くし、穩に且速に其局を結ばむ事を議會に向つて望むさいへり。

●時事新報　は國會の前途さ題して曰く、日本の政躰を、立憲に變じて國會を開設するは、開闢以來の一大變動にして、前途の安否如何さは、目下我國の大問題たるのみならず、此風聞夙に外國に傳播してより、外國にても種々に論評し、時さしては日本國會の、首尾不首尾を題さして、賭にするものさへあるさいふ然れ共我日本社會の歷史を詳にし、其政事人事の由來に照らして、國會の前途を推察する時は必上首尾なりさ斷言せざるを得ざるなりさて、我日本國に固有なる、政事人事の由來を略說し、數百年來歷史の文面外に、行はれたる事を明らかにし、我立憲政躰も國會開設も、偶然の僥倖に非ずてふヿを開陳せんさせしが此論未だ局を結ばす

●日本　は政府が帝國議會に提出したる窮民救助法に就て論じて曰く窮民救助の事たる固より政府も人民も、不同意なき事なるべし、但其方法如何は、議論の岐るゝ所ならんさて其方法に就て一二の論議を下し、而して又曰く必竟此窮民救助の事たる、今日の形勢に於て、必要なしさはいふ可らず、然れ共現今我國の形勢上最急至要の問題に非ず、此を措て他に、第一期の議會が、心思を費さゝるべからざるもの眼前に堆積せり、國會第一に政府が此原案を提出せるは、其意何れにあるかを知るに苦しむさ論じたり。

●改進新聞　も亦曰く、吾人窮民救助法を案するに、窮民救助法さしては能く草案されたり、完全さは云はざるも先づ能く出來たり、然れ共今日特に此法を、發布せさるを得ざる急切の要あるか、吾人は政府の多忙頻繁を聞けり、然れ共斯の如き草案を提出さるゝ所を思へば、政府も亦閑暇ありさいふべしさ批難したり

## 通信

### 越後高田通信

長野縣松代町大住寺の海沼教躍尼は品行方正道德堅固なるが上に學識も普通男僧の上に出て同地方青年者の組織せる顯道會の幹事さなり演說討論等に從事さるゝさのヿなるが今回招聘に應して來高の上高陽女學會（佛教主義）及び其他の諸寺院に於て說教演說等せられたり○本郡中吉川村大字東寺杉田浩氏は多年の辛苦經營にて此頃漸く蕖より綿を製するの法を發顯し十分の成蹟を得たりさ。

### 神戶通信

神戶英和女學校は帝國議會の開院を祝する爲め去る廿八日全校一同休業して祝賀會を催せり其際余興さして種々の遊戲をなしたる内最も面白かりしは西洋の敎師さ我國の敎師さの綱引にてありし兩派各必死さなりて力を極め勇を奮ひ互に挑み合しが雙方共寸進尺退縱橫蹣跚暫し勝負も見へざりしが頓て西洋方は日本方の爲に引付られ引寄られて敗北さなりたりしが賞品は終に日本敎師の手に落たりき

### 和歌山通信

瀧本光枝報

●女子高等師範學校へ入學志願者四名あり一名は郡部自余の三名は當市より出づ

●本縣尋常師範學校へ女子部設立の儀本年の通常縣會に於て議決せり。

●當地音樂俱樂部員は秋季音樂演習會を催され雅俗歐曲等交々演奏し中にも土耳其軍艦エルトクロール號の歌は師範校附屬生の唱へし曲にして雄壯活潑の中に悲哀堪ゆる能はさるの感情を與へ爲に衩面絞袖の婦人も數多見受けたり同日同會への寄附金は今回土耳其人遭難の紀念碑設立金の中へ寄附するの目的なりさ云。

●去る三十日を以て當地西派本願寺別院に於て婦人教會の發會式あり善女の加入無慮四百余人式場に列するもの一千余名盛し宗教擴張の機關なりさいふ今後の運動如何は聞くに隨ひ報道すべし。

●當地基督敎婦人傳道會は漸次に擴張せられ着々其事業に從事せり今は會員三十名に出てされさ將來盛大さなる見込あり。



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

來十九日夜六時より明治女學校にて安藤太郎氏の禁酒大演說あり、男女ともに自由に來聽あらんことを請ふ但し滿員の上は謝絶すべし。



## 女報

●北海女學校　札幌區南三條西二丁目に於て北村某氏外數氏發起人となり北海女學校なるものを私立し十二月一日より始業せられたりと其科目は普通の女學校と異なることなし。

●廢娼運動　大阪在住の山口縣人井下彌太郎岡山縣人福井瀧三郎等數氏發企となり三百餘名の同志者を誘導して去る三日廢娼の建議書を大阪府知事並に府會に向つて呈出したり。

●磨齒水劑　這回本鄉臺町九番地白虹堂より發賣したる齒磨水は、齒牙を清淨健全にし、齒齦の腫れむし齒の蝕痛并に其腐蝕防過等種々の特能あるよし。

●東京慈惠醫院　にて去る十一月中の施療患者は五百九十五人この施藥日數六千七百二十四日內入院患者八十六人この日數千六百六十四日、外來同五百九人この日數五千六十日又同院會員へ加入每月積金五圓前田侯爵夫人、同二圓近衛公爵夫人同一圓原貞子一時寄附金五圓宇野木花子等なりと。

●廢娼建白書成る　神奈川縣會廢娼建議案起草委員宮田虎治、村野常右衛門、鎌田納郎、の三氏は過般來議事筆記に依り建白書起草中なりしが愈々出來せしを以て兩三日內には知事に差出す筈なりと云ふ。

●慈善踏舞會　赤十字社病院にては追々貧民患者增加し隨て寢臺に不足を告げたるを以て會員の貴夫人等は更に十個計を新調せんとて爲に來る廿三日夜を以て帝國ホテルに舞踏會を催し參會者には三圓金に代へて切符一葉を交付する筈なりと

●婦人普通撰擧　グラッドストーン氏がスコットランドにて目今英國の政治問題は愛蘭問題の外に七個ありと演說せられたる其七個の中に婦人普通撰擧並に禁酒の二問題も加はり居たりとぞ。

## 週報

●官令　八日外交官及領事官の俸給旅費等に關する件を裁可公布せらる●全日官有森林原野及產物特別處分規則中追加の件裁可公布せらる。

●宮廷　八日光格天皇五十年御陵祭勅使として掌典竹屋光昭氏を京都へ遣さる●全日皇太子殿下參內。

●政治　六日松方山縣の二大臣衆議院に於て演說す●八日有志の人々厚生館に私立國會を開く。

●教育　六日築地の文海學校開校式を行ふ

●彙報　二日　新潟縣師範學校燒失●三宅辰巳の二文學士國華新聞を去る●七日鶴喉學術大演說會を鷗遊館に開く●九日御陪食仰付られたるため板垣伯參內。

●根本正氏　明治女學校の教諭米國文學士根本正氏は今回東京高等女學校并に高等女子師範學校教諭に任ぜられたり。

| 品名 | 十二月十日 |
|---|---|
| 白米（一円ニ付） | |
| 一等米 | 一、〇四（斗升合） |
| 二等米 | 一、〇七 |
| 三等米 | 一、一〇 |
| 四等米 | 一、一八 |
| 五等米 | 一、二三 |
| 正米（一円ニ付） | |
| 肥前米 | 一、六六（斗升合） |
| 越後米 | 一、四三 |
| 尾張米 | 一、三九 |
| 美濃米 | 一、五四 |
| 忍領米 | 一、四六 |
| 鹽（一円ニ付） | |
| 赤穗 | 三、三五（俵分厘） |
| 大鹽 | 三、四〇 |
| 本齋 | 五、三〇 |
| 醬油（一円ニ付） | |
| 最上 | 樽 七二（分厘） |
| 極上 | 九一 |
| 上 | 一、三〇 |
| 中 | 一、七〇 |
| 下 | 二、二〇 |
| 製茶（一貫目ニ付） | |
| 山城江州大頭 | 二、四三〇（円） |
| 同大頭 | 一、九〇〇 |
| 同小頭 | 一、六〇〇 |
| 狹山頭 | 一、七五〇 |
| 同稀頭 | 一、四二〇 |
| 雜穀（一円ニ付） | |
| 本貫大麥 | 二、五〇（斗升合） |
| 上州小麥 | 一、七〇 |
| 梅澤大豆 | 二、二〇 |
| 青柳大豆 | 二、一〇 |
| 吟小豆 | 一、五三 |
| 白胡麻 | 一、二三 |
| 黑胡麻 | 一、五五 |

| 品名 | 十二月十日 |
|---|---|
| 味噌（一円ニ付） | |
| 地製白上 | 六、五〇〇（貫目） |
| 同上赤 | 六、五〇〇 |
| 同中赤 | 六、七〇〇 |
| 同紅白 | 五、〇〇〇 |
| 同極上 | 五、〇〇〇 |
| 薪（一円ニ付） | |
| 鹿島堅木上 | 五一（束） |
| 同並 | 六三 |
| 雜木上 | 八〇 |
| 同並 | 九六 |
| 曾根大東 | 二五 |
| 雜木大東 | 二八 |
| 呉服（一反ニ付） | |
| 御召縮緬上 | 九、〇〇〇（円） |
| 糸織極上 | 七、三〇〇 |
| 一樂織極上 | 九、〇〇〇 |
| 結城紬極上 | 五、八〇〇 |
| 節糸織極上 | 五、八〇〇 |
| 本八丈極上 | 六、八〇〇 |
| 流球紬極上 | 五、八〇〇 |
| 銘仙極上 | 三、八〇〇 |
| 奉書紬極上 | 四、五〇〇 |
| 七々子稀物 | 一〇、〇〇〇 |
| 白縮緬上等 | 一二、五〇〇 |
| 縞珍織極上 | 二五、〇〇〇 |
| 本國織極上 | 一五、〇〇〇 |
| 唐繻子極上 | 一〇、五〇〇 |
| 和黑繻子上 | 一〇、八〇〇 |
| 博多織極上 | 一〇、五〇〇 |
| 綀仙臺極上 | 九、二〇〇 |
| 嘉平治平上 | 二、〇〇〇 |
| 五仙平極上 | 五、三〇〇 |
| 花色鍈絹上 | 四、五〇〇 |
| 本紅絹上 | 六、八〇〇 |
| 色甲斐絹上 | 六、二〇〇 |

| 品名 | 十二月十日 |
|---|---|
| 白木綿（一個ニ付） | |
| 玉鶴 | 三、三五（反分厘） |
| 綾鶴 | 三、六五 |
| 日の出鶴 | 三、九五 |
| 若柳 | 三、〇三 |
| 白梅 | 三、八〇 |
| 蓬萊 | 三、八五 |
| 繰綿（一円ニ付） | |
| 新坂上銘大入 | 七九〇（貫百十目） |
| 同京丹大入 | 八〇〇 |
| 同坂丹大入 | 八一〇 |
| 地綿文庫入 | 九〇〇 |
| 同泰生 | 二、一五〇 |
| 毛糸（一斤ニ付） | |
| 鶴判上 | 一〇、五〇〇（円） |
| 同染分 | 一〇、五〇〇 |
| 同中細 | 一二、〇〇〇 |
| 同極細 | 一二、〇〇〇 |
| 最上スコッチ | 一四、五〇〇 |
| 靴下用極上 | 一二、五〇〇 |
| 絹糸（一円ニ付） | |
| 本練花色並 | 二、八五（匁分） |
| 赤白上々 | 二、三五 |
| 延糸並 | 二、九五 |
| 色物太練上 | 二、三五 |
| 極天上色物 | 二、三〇 |
| 石油（一箱ニ付） | |
| チヤスタ | 一、七六（円） |
| ホーキ | 一、七四 |
| デボース | 一、七二 |
| ロシヤ | 一、六八 |
| 水油（一樽ニ付） | |
| 地水 | 八、二〇（円） |
| 胡麻 | 九、七〇 |
| 荏油 | 一〇、三〇 |
| 桐油 | 六、九〇 |



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

## ●○脚氣患者諸君よ左の○●

廣告を讀んで世に名灸有るを知り玉はんことを

●官許專門 天下無比 **かつけ根切灸點術**●

附言輕症は一二度如何なる重病と雖ども四五度限り全治受合○灸治効能男女を論ぜずかつけは勿論腰より下の冷て痛む病に大効ある事受合論より證據皆驗あれ○當時拙家近邊に類似の家號名乗る同業者出來たるに付番地家號篤と御注意の上陸續御來車あれ

京橋區本材木町三丁目二十一番地松屋橋通り **壽福堂**

---

文部大臣子爵榎本武揚公題字

大學院學生醫學士三島通良先生編述

**皇后宮御覽** 增補訂正 第二版

# はゝのつとめ

醫科大學産科婦人科及小兒科病室參考書
群馬縣其他師範學校高等女學校幷小學用書

親の卷 妊婦産婦の心得 定價金三十錢（郵稅二錢）

子の卷 日本育兒法 定價金四十五錢（郵稅四錢）

右は我國無雙との好評を博したる母子衛生書なるが今般增補訂正の上再版したりクリスマス婚姻出産の贈物としてもこよなき好品なり。

**書肆** 通三丁目 丸善。表神保町 中西屋。馬喰町 島利。春木町 島利支店。通塩町 中央堂。下六番町 **女學雜誌社**

---

# しきしま

毎月一回十五日發兌

廿四年一月十五日第一號發兌

本誌は敷島の日本に於て發生し。日本に於て暢達し。日本の特有なる神美妙靈なる志想を顯はす歌。俳諧を主とし。大に日本の文學を發揮するものにて。廣く斯道の大家を計り。毎月宮中御兼題の歌を始め廣く世の雅客の吟詠を募集し。尚ほ日本の文學に關する高尚優美なる論說。記事。考證。釋義等諸大家の文章をも揭ぐ。其題詠は毎月五日を〆切の期限とし。諸大家の撰擇を乞ひ逐號に出せば。有志の諸彦は此期限に遲れざる樣御投吟あれ。

和歌課題

小出粲大人撰 一松の門三草子先生撰

一月 新年看鶴 一月 雪中梅

二月 遠山朝霞 二月 竹間鶯

俳句（當季混題 五句限） 夜雪庵金羅宗匠撰

課題は右大家の撰擇を經。其秀逸なるものは本誌に登載し。特に感吟の方へは本誌を呈す

本誌一冊代價六錢●半ヶ年前金郵稅共三拾三錢●一ヶ年前金郵稅共六拾三錢●廣告料は五號活字二十字詰一行五錢つゝ爲替は神田郵便支局振込の事●切手代用は一割增●見本御望の方は五厘切手にて六錢送附あれ

**發行所** 東京市神田連雀町十八番地 **花月館**

---

小生儀**産科婦人科**爲專修獨逸國ニ留學罷在候處本月六日歸朝仕候ニ付不取敢辱知諸君へ告知申上候也

麹町區永田町一丁目十七番地 伊東方成方同居

醫學士 **鈴木愛之助**

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●獨乙國化學家グルハルト先生發明、全國醫學博士クエスモール先生經驗●日本醫士森先生證明

解熱（げねつ）鎭痛（ちんつう）
# 新特効藥（しんとくこうやく）

| | | |
|---|---|---|
| 十五包入 | 金廿 | 錢 |
| 七　包入 | 金十 | 錢 |
| 三　包入 | 金五 | 錢 |

●ひきかぜ●はやりかぜ●たん●せき●百日ぜき●おこり●リヨーマチス○づゝう●ねつ病一切●肺病のねつ●ちぶす●はいたみ●ちの道の妙藥

東京神田區小川町壹番地いてうの木前

本舖　藥劑師　笠井資生堂

大取次
麹町區三番町殺蟲油本舖　雨宮藤吉
日本橋區村松町壯眼水本舖　岩涙長藏
全區本石町十軒店　森谷十全堂

府内外に取次あり郵劵封入御申越有も差支なし

# 各教會愛兄姉に告ぐ

新榮教會員にして最も老實の聞へある島田彌十郎氏（府下本所區林町貳丁目七十二番地居住）は今回各派キリスト教信徒求婚者の爲め彼我の間たに立ち之を紹介するの勞を採らるゝ由故に結縁を求めらるゝ諸兄姉方は速に同氏へ御相談なされたし其結果は單に便利上耳ならず一家を平和にし及び神の教會を堅固にする要素にして實に信者互の幸福と確信仕候依て此旨廣く御傳へ申上度切望の餘り茲に連署を以て申述候以上

但御都合次第郵便にて御申込あらば同氏方より出向き親く御相談に預る由に御座候

明治廿三年十二月

| | | |
|---|---|---|
| 贊成者 | 新榮教會員 | 高坂駒重 |
| 贊成者 | 聖保羅教會員 | 笛木角太郎 |
| 贊成者 | 兩國教會員 | 切替朝諧 |
| | 明星教會員 | 中川和兵衛 |

大槻文彥先生編

# 語法指南　全一册

定價金二十五錢　郵税四錢

右は普通の日本文典にして而して大に從來の文典と其撰を異にせり文字論音論を始めとして八品詞の區別より動詞、形容詞、助動詞、の語尾變化、てにをは、の用法に至るまで西洋文法の位立を參取して而して國語天然の性質を損せず中外斟酌創意規定したるものにて次ては順序脈絡貫通最も授業上に便ならしめたり國語教科に從事の諸君參考に供せられむとを請ふ。

北齋叢書

# 花鳥畫譜　奉書刷彩色入

正價金四拾錢　郵税貳錢

右書譜は北齋先生の畫に學理適當なる極美麗の彩色を施し一目して實物を觀るが如し頃日諸學校に於ても毛筆畫を採用す其參考には最も適當なり其他年暮年首の贈物には奇妙なり又外國へ輸出を謀る商人諸君は片時も早く實物を見て他商の魁をなさんとを乞ふ右彩色の如きは數年間保有しても變色の憂なし依て赤道直下を經過するも變色するなきは無論なり。

英國ビーコンスフヰールド伯原著
日本福地源一郎　塚原靖譯述

# 昆太利物語　下編大尾全一册

定價金三十五錢　郵税金四錢

此原書はビーコンスフヰールド伯が生涯の傑作なりと云ふ、左も有るべし、其叙事の精巧細微ふるは姑く言ず、彼の主人公コンタリニー、フレミングを掌中に使ひ廻して其をして憂苦快樂吉凶禍福冷熱盛衰の苦海に流轉せしむる態巧なる傀儡師が死偶を活人の如く繰つを觀るよりも面白し、（或は曰く此物語は伯自身の經歷を小說として自ら著はされたるなりと云ふ、然る隱れたる意味も有ぬべし）而して其最も趣向を煉たりと見るは、──ジヨンステルナデ森林山賊の回より（今回出版の下編にあり）──フレミング夫人（アルセステー）が終焉の段に至る前後數十回に在るが如し、故に譯者も此回々は特に心して其幹旨を漏なく寫しぬされど其の中叙事形容の餘に細微に渉れるものは譯者が腦を痛むるにも似ず讀者の欠を嘯んとを恐て省るも有りし─夫れより後、南歐の遍歷、西亞の巡遊の卷に至りては作者が擔やりの筆とも見ゆれば四五の興ある場所のみを拾ひて其餘は棄つ云々

東京市日本通二丁目十三番地

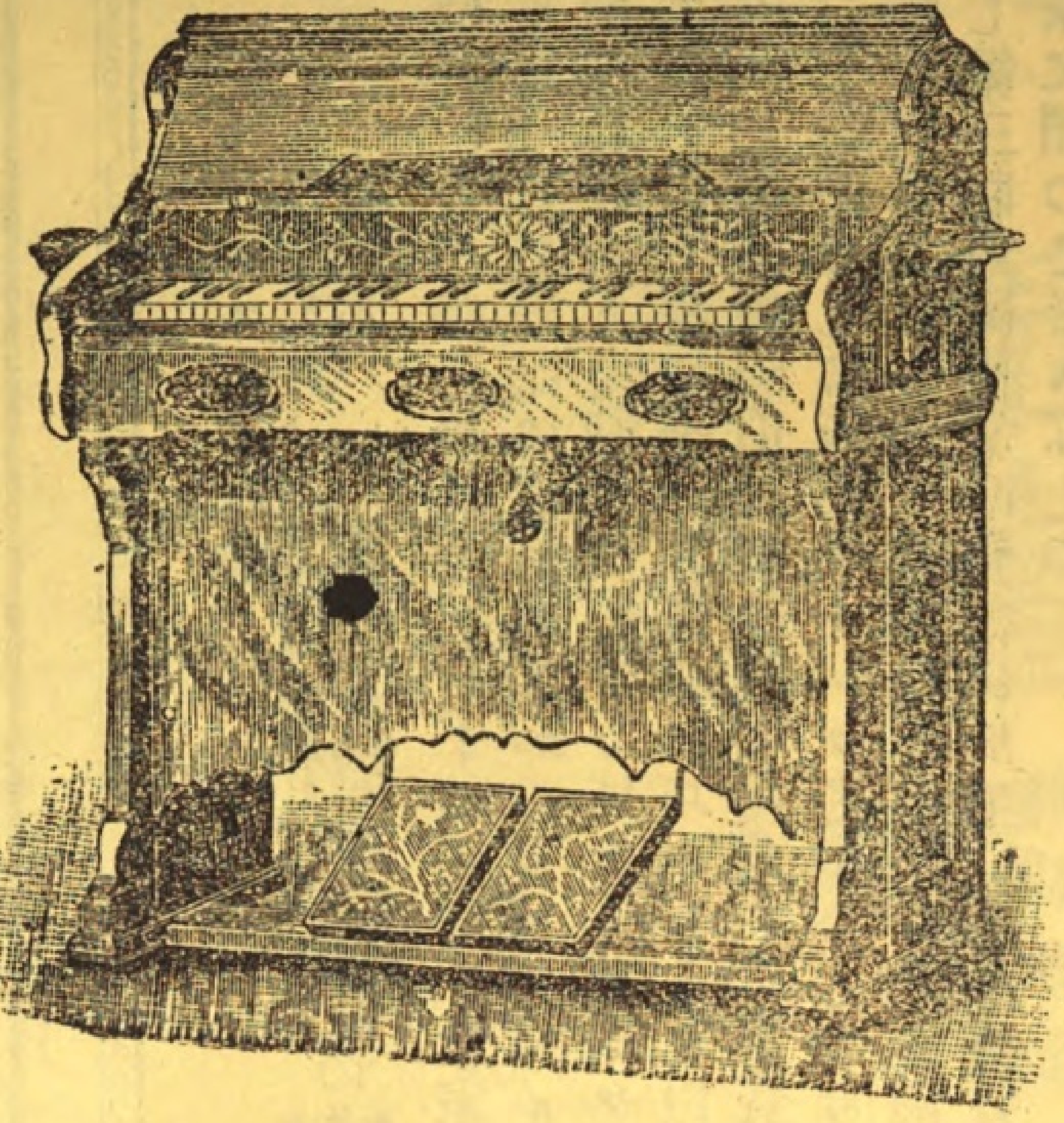
大日本圖書會社
圖書賣捌所

出版者
嵩山房
須原屋
小林新兵衛　敬白

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 高木商店樂器着荷廣告

○弊店義兼テ歐米ヘ注文致置キ候ピヤノ。ヲルガン。ヴワイヲリン。並ニ歐米諸大家ノ音樂書籍數百種今回着荷致候ニ付キ非常廉價ニテ販賣可致候間御一覽ノ上御購求被下度伏テ是祈ル。



○和製ヲルガン儀モ近頃諸機械ヲ設備キ凡テ歐米製ト異ナル無キ品ヲ製スルニ至レリ貳拾圓以上百貳拾圓迄數種
○ピヤノ。ヲルガン等深切ニ調律修繕可致候

東京市神田區通鍋町拾番地

高木商店

但雛形代價附御入用ノ節ハ御申越次第直ニ郵送ス

私立明治女學校内に新設する職業科

本校内に新たに女子職業部を設け、本科生は三年にて、別科生は一年半にて、兼修生は毎日半日づヽ、修業三年にて卒業し、裁縫、編物、縫箔、陶器畫、作花等の各種に上達することを得しむ。來年一月より開業可致に付、志願の人は本年中に申込あるべく、規則書入用の人は二錢切手封入通知あれ。

東京下六番町六番地

明治女學校

診察 毎日午前

殊に女學生を優待し、別室を設け、尤も信切に診察すべし、尚學業中餘資なき人の爲に自由治療す。

東京神田和泉橋通松永町廿三番地

渡邊泰

# 附録女學（第一冊）

女學雜誌二百四十二號附録

廢娼建議の文　小島官吾

文學會の序（英文）　若松賤子

小夜中　磯貝雲峯

右附録直旨意の諸君に呈す。廢娼建議文は周密精細にして且つ文章雄麗欝勃、廢娼論文數多あるうち、未だ如此く平易にして且つ感深き者あるを見ず。若松女史の英文は或文學會年會の祝詞にして二年前の舊作に係ると雖ども、爾來居留人の間に嘖々として評判極めて高きものなれば、所望の人多きにより茲に掲げ、女學生英文の一標本とす。雲峯子の新躰詩は自から一家獨得の妙あり、此篇は分けて意を凝め、感慨を溢らしたれば、朗吟の際涙禁じがたきを覺ゆ。

新形 ○金銀 鼈甲 蒔繪 御櫛笄かんざし類 東京 中橋南傳馬町二丁目

蒔繪護膜櫛發賣本舖（ほんでむまきゑ御さしぐしはつばいもと）○流行小間物所

白ぼたん

此外 新製 櫛 かんざし根がけるゐ 數千種出來精々廉價販賣仕候

大西

---

ラフエル氏油繪

# 聖母、及び耶蘇基督の寫眞畫像

（丈一尺八寸巾一尺三寸）

定價一枚金卅錢○府外遞送費十錢○但宗敎家に限り全國無遞送料府内は減價廿錢我邦の巨勢金岡支那の吳道子と同く歐洲にて畵師の泰斗と仰がるゝラフエル氏は西暦千四百八十三年伊國に生れペルジノーに就て畵を學びしが出藍の妙技ありて師に超越する所あり羅馬ジウリヤス二世法王之を聘しバチカン宮殿の壁畵を畵かしむ因て天下に名聲を揚ぐ殊に聖母を畵くに巧みなるを以て大に賞賛せらる此油繪は伊國の貴族コロンナ家の爲め筆を採りしものにて現に獨國伯林美術館に秘藏する重寶なり世にコロンナのマドンナと稱するは即ち是なり二十年前佛國にて之を評價せしに百萬フランクといひしが今若し價格を論ずれば其幾百万フランクに騰るやも知るべからず實に稀世の名畵といふべし我邦美術の振作を企圖する某貴紳頃日此寫眞を携へて歐洲より歸朝せり今回乞ふて之を縮寫し第三回内國勸業博覽會に於て一等妙技賞の榮を得たる小川一眞氏に託してフホトタイプとなし宗敎家及び美術家に頒つことゝなしぬ

附言 全國新舊基督敎會及學校へは一葉進呈可致候間遞送料を添へ御申込あれ

發賣所 東京々橋區加賀町十四番地 兼葭堂

關西賣捌 大阪高麗橋通一丁目筋南入 晚翠堂

佐藤定介　畠山健兩先生校定

# 隨筆叢書　百家説林

山を築き流を引き岩石をすゑて樹木百草を植ゑわたしたる其景固より愛すべし花も咲くべく實も結ふべし然れども天眞爛熳といふに至りては尙これを深林幽谷に求めざるべからずこれを著者に譬へば正著は彼の庭園の傾あるべく雜著隨筆は深林幽谷のたぐひなるべし而して重に正説は正著に存し雜説は雜著隨筆に存せりこの百家説林は德川氏時代の和漢學者の國文の雜著隨筆を集めたるなりこれ等學者の正説は大かた正著にて人皆の知れるならんされど雜説にいたりてはすなはち人跡のうさき深林幽谷たる雜著隨筆の間に繁茂していまた世に知られざるもの或は少からざらんまことに遺憾といふべし今回二先生この深林幽谷を開拓して普く世人をして探りやすくいたりやすからしめられんとす歷史の逸事文章の美觀萬般手折るべき花拾ふべき實實に林中に充滿せり人一たびこの境にわけ入らば殆歸るを思はざるべし大方の士まつ試にこの境に遊びみよこの自然の景は坐を設けて以て友を待つこと甚切なり卷一より卷十まて目錄左ょ

洋裝　美製本　大形
一冊紙數凡五百頁
全廿卷ニテ完結ス
每月一卷宛發行
第一編既ニ發行
一冊ニ付
定價金四十錢
郵税金八錢

●卷之十一より二十迄は目次は卷二出版の際をり廣告す●

卷一　獨語（太宰春臺）　北邊隨筆（富士谷御杖）　奈留別志（物徂徠）　筆のすさび（菅茶山）　都の手ぶり（石川雅望）
卷二　玄同放言（上集 馬琴）　雨窓閑話（著者不詳）　退私録（白石）　かたひさし（齋藤彥麿）　●佐賀野の草、相川功垂　●北里十二時、石川雅望
卷三　玄同放言（下集 馬琴）　泊洦雜話（清水濱臣）　桂林漫録（桂川中良）　假名世説（太田南畝）　尾花の本（本居宣長）
卷四　梅園叢書（三浦安貞）　昆陽漫録（青木昆陽）　鋸屑譚（谷川士清）　附録 遊京漫録（清水濱臣）
卷五　松の落葉（藤井高尙）　柳葊隨筆（栗原信充）　雲錦隨筆（加茂季鷹）　逸語（室鳩巢）　附録 まゝのロずさみ（小津久足）
卷六　縣居雜録（加茂眞淵）　南畝莠言（太田南畝）　雲萍雜誌（柳澤淇園）　萍の跡（大寂庵立綱）　松屋叢話（高田與清）
卷七　織錦齋隨筆（村田春海）　燕石雜志（自筆書入本 馬琴）　駿臺雜話（室鳩巢）　關の秋風（松平樂翁公）
卷八　筱屋漫筆（前半 西田直養）　三養雜記（山崎美成）　近世奇跡考（山東京傳）　聖學自在（新井白蛾）
卷九　雜問答考（加茂眞淵）　筱屋漫筆（後半 西田直養）　世事百談（山崎美成）　醒醐隨筆（中山三郎）　寢覺のすさび（石川雅望）
卷拾　燕居雜話（日尾荊山）　蒼海一滴集（片山圓然）　よませの記（馬琴）　槐陰雜記（福岡賴藏）　四方の硯（島鶴山）

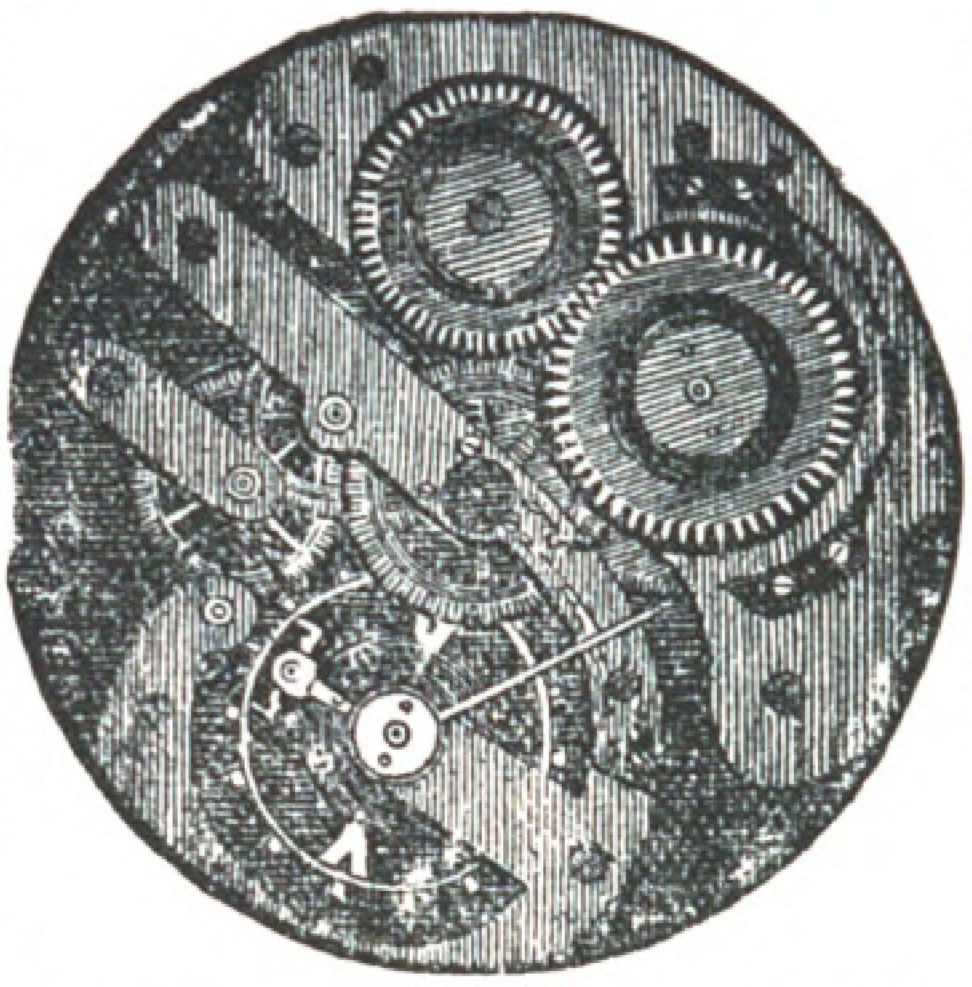
●卷之十一より二十迄の目次は卷二出版のをり廣告すべし

發行所　東京々橋區南傳馬町一丁目十二番地　吉川半七
賣捌所　大阪南區心齋橋筋南一丁目　松村九兵衛


Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 天賞堂時計發賣廣告

瑞西國シイベル、フレンワルド横濱新九十番商會專賣に係る時計の精巧堅牢なるは江湖の熟知せらるゝ處弊堂該懷中時計數十種中に就き左の八種を撰擇し廣く之を發賣す



（金側）丁價六十圓十八金廿一形片硝子持出し付金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上げ龍向ひ爪左アンクル二番より惣石入●丙價七十圓同裏三枚蓋●乙價七十五圓同無雙●甲價九十八圓同裏三枚蓋●各器械構造概略圖の如し●東京市外遞送費廿錢●（銀側）丁價八圓片硝子廿一形金針入鍵卷懷中時計器械プラチナ滅金向ひ爪左アンクル●丙價十一圓半同龍頭卷向ひ爪右アンクル●乙價十五圓同本ニッケル卷上ゲ龍二番より惣石入●甲價廿一圓同七所金●各器械構造概略圖の如し●東京市外遞送費廿錢

右時計は器械の堅牢なる弊堂が說明を待たざる處なり然れども特に御請求の分に限りて左の手續に從ひ正確の保險狀を呈すべし○保險を要せらるゝ場合は御購求の當時さ既に御購求の後に在るさに拘らず各一個に付左の保險料を申受べし　一金側金五圓　一銀側金二圓○保險年限は金銀時計共二十箇年を以て限さす○保險年限中は特に諸器械及び硝子の破損修繕油さし磨き直しの手入は無代價さす○保險年限中自然器械の變化を生じ使用に堪へざる事あれば何時たりさも同種にして新規なる者さ交換又は原價を返却すべし●保險の有無に拘はらず

**御購求後三十日以內に限り交換又は原價の返戻を要せらるゝときは其望に應ずべし**

今回又左の時計及時計附屬品洋服裝飾品各種を發賣す●但し時計は保險手續其他總て前文による

**米國製**（金側）十八金廿一形無雙龍頭卷懷中時計甲價百五圓●同乙價九十五圓●同十四金甲價七十三圓●同乙價六十三圓●（銀側）同甲價廿圓●同乙價十六圓●同片硝子價十五圓●（金着側）同無雙甲價廿九圓●同乙價廿五圓

**瑞西國製**（金側）十八金廿一形無雙懷中時計器械本ニッケ卷上げ龍向ひ爪左アンクル二番ゟ惣石入價六十五圓●同十四金價四十九圓●同十八金裏三枚蓋乙價九十二圓●同甲價百十圓●同七曜及日指し付價百四十五圓●同コロノカラフ引打月の滿缺十二ヶ月七曜及日指し付價三百五十圓●（銀側）廿一形無雙裏三枚蓋金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上ケ龍向ヒ爪左アンクル總石爪石入價三十六圓●同片硝子右アンクル價廿九圓●同中硝子價廿六圓●同片硝子鍵卷懷中時計器械本ニッケル卷上ゲ龍向ヒ爪左アンクル價十一圓●同惣石入價十五圓●同爪石入價十八圓●

**貴婦人持時計**（金側）十八金十三形無雙龍頭卷懷中時計價廿九圓●同裏三枚蓋價四十五圓●同片硝子價十七圓半●同無雙金剛石裝飾付價六十六圓

**時計附屬品** 鎖及磁石寫眞入其他各種

**指環** 金黄製見留印付及寶石入各種

**洋服裝飾品** 腕輪胸飾ピン手ボタン其他各種

## 交詢雜誌評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は米國製及び夙に時計の製作を以て世に有名なる瑞西國の製品にしてその器械の堅牢なることさその構造の精緻なることさその裝飾の美麗なることゝ何れも世間の好評に違はざる良品なり尙且購求後三十日以內は購買者の自由に之を取換又は返還するを得て望みに依れば二十箇年を限り之を保險しその年限中は無代價にて之を修復するよしなれば購買者の爲め更に一層の便利なりさ云ふべし

## 東京日日新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て有名なる京橋區尾張町二丁目十八番地の天賞堂にて此程より發賣する金銀時計は歐米製造數千百種の中につき特に器械裝飾の善良完美なるものを撰擇せしものゝ由にて從來船載の物に比すれば堅牢精緻なる同日の談に非ざるが如し殊に時計一個毎に丁寧親切なる心得書を添へ又二十年間の保險を附し購求後三十日以內は物品の交換原價の返却さも購客の望に任ずるさ云へば自然適意の品物を入手するを得べきなり猶前日來の廣告につき其詳細一覽あるべし

## 時事新報評

○天賞堂ノ時計　尾張町二丁目ノ天賞堂ニテ發賣スル時計ハ何レモ機械ノ堅牢ナルモノヲ撰ミ購求者ヘ取扱ヒ方心得書ヲモ與ヘ買取後三十日以內ハ交換或ハ原價ノ返却ヲ求ムレハ其望ミニ應スルトノコトナリ

## 朝野新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て名ある尾張町二丁目天賞堂にて發賣する時計は各種の時計中に就き特に撰擇せしものにて在來の時計に比し機械も餘ほど堅牢精功なるに一個毎に取扱心得書を添へ且購求後三十日以內は都合に依り交換又は原價の返却を求むる時は其望みに應ずる由

## 郵便報知新聞評

○天賞堂時計　彫刻ニ有名ナル天賞堂（京橋區尾張町二丁目十八番地）ヨリ發賣スル時計ハ米國製或ハ瑞西國製ニシテ器械堅牢且ツ裝飾美麗ナルヲ以テ大ニ評判ヨク殊ニ購求後三十日以內ニ現物ガ氣ニ入ラヌ時ハ他品ト取換ヘ又ハ原價ヲ返戻スルヨシナレバ購客モ大ニ安心シテ買求メ望ミニヨリテハ保險ヲモ附シ其ノ年限內ハ器械及ビ硝子ノ破損等ノ修復ハ無代價ナリト云フ

## 日本人評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は、歐米各種の製造品中に就き、特に器械の堅牢なるものを撰擇して、一個毎に丁寧なる取扱方心得書をも添へ、其上二十年間の保險を附するのみならず、購求後三十日間は、品物の變換、代價の返還とも凡べて其の望み通りに任かすと云へは、購買者に取ては至極便利なりと云ふべし。

東京市京橋區尾張町二丁目十八番地

**天賞堂**



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY